

剽。休則掘冢。作巧姦治。多美物。爲倡優。女子則鼓鳴瑟。跕屣游媚貴富。入後宮。徧諸侯。然邯鄲亦漳河之間。一都會也。北通燕涿。南有鄭衛。鄭衛俗與趙相類。然近梁魯。微重而矜節。濮上之邑。徙野王。野王好氣任俠。衛之風也。夫燕亦勃碣之間。一都會也。南通齊趙。東北邊胡。上谷至遼東。地踔遠。人民希。數被寇。大與趙代俗相類。而民雕悍少慮。有魚鹽棗栗之饒。北隣烏桓。夫餘。東綰穢貉。朝鮮。眞番之利。

洛陽東賈齊

洛陽は東、齊魯に賈し、南、梁楚に賈す。故に泰山の陽は則ち魯、其陰は則ち齊

して節を矜ぶ。濮上の邑野王に徙る。野王は氣を好み任俠にして、衛の風なり。夫れ燕も亦勃碣の間の一都會なり。南、齊趙に通じ、東北、胡に邊し、上谷より遼東に至る。地踔遠に、人民希に、數々寇を被る。大に趙代の俗と相類すれども、而も民雕悍にして、慮少し。魚鹽棗栗の饒有り。北、烏桓、夫餘に鄰し、東、穢貉、朝鮮、眞番の利を綰ぬ。

- 土地瘠せ
- 股本紀を見よ
- 氣ばマであつて
- 投機的の事をなして利益を得て衣食す
- 徒黨をなして、推を以て人を打殺し追刺をなす
- 墳墓を發掘して寶を盜み
- 巧みに人を媚ぶることをなす
- 二十五絃の琴
- 諸侯の國々に行渡れり
- 類似す
- 沈著にして
- 渤海と碣石との間
- 甚だ遠く隔たり
- 熊鷹の如くすばやく惡強し
- 取襲めて取る

魯。南賈梁楚。故泰山之陽則魯。其陰則齊。齊帶山海。膏壤千里。宜桑麻。人民多。文綵布帛魚鹽。臨菑亦海岱之間。一都會也。其俗寬緩。潤達而足。智好議論。地重難動。搖怯於衆。關勇於持刺。故多劫人者。大國之風也。其中具五民。而鄒魯濱洙泗。猶有周公遺風。俗

貨殖列傳第六十九

五九三

なり。齊は山海を帶び、膏壤千里、桑麻に宜しく、人民多く、文綵布帛魚鹽あり。臨菑も亦海岱の間の一都會なり。其俗寬緩。潤達にして智に足り、議論を好む。地、重くして動搖を難る。衆關に怯にして、持刺に勇なり。故に人を劫す者多し。大國の風あり。其中に五民を具ふ。而して鄒魯は洙泗に濱し、猶ほ周公の遺風有り。俗、儒を好みて、禮を備ふ。故に其民靦靦として、頗る桑麻の業有れども、林澤の饒無く、地小に人衆く、儉嗇にして、罪を畏れ邪に遠ざかる。衰ふるに及びて、賈を好みて利に趨ること、周人より甚だし。夫れ鴻溝より以東、芒陽以北巨野に屬するまで、此れ梁宋なり。陶唯陽も亦一都會なり。昔堯、游を成陽に作り、舜雷澤に漁し、陽、亳に止まる。其俗猶ほ先王之遺風有り。重厚にして君子多く、稼穡を好む。山川の饒無しと雖ども、能く衣食を惡しくし、其蓄藏を致す。

- 膏腴なる土地
- 紋様のある美麗なる織物
- 心廣くゆるやかにして、さばけて
- 土着を重んじ

好儒備於禮。故其民饑餓。頗有桑麻之業。無林澤之饒。地小人衆。儉嗇畏罪。遠邪。及衰好買趨利。甚於周人。夫自鴻溝以東。芒碭以北。屬巨野。此梁宋也。陶睢陽亦一都會也。昔堯作游成陽。舜漁於雷澤。湯止于亳。其俗猶有先王遺風。重厚多君子。好稼穡。雖無山川之饒。能惡衣食。致其蓄藏。

動を好まざ ① 人を刺し撃つことに長ず ② 遺れる仁の風俗あり ③ こせくとして ④ 儉約にしてけちくさく ⑤ 沈著にして手厚く ⑥ 貨財を蓄積せり

越楚則有三俗。夫自淮南北。沛陳汝南。其俗剽輕易。發怒地薄寡。於積聚。江陵故郢都。西通巫巴。東有雲夢之饒。陳在楚夏之交。通

越楚には則ち三俗有り。夫れ淮北より、沛、陳、汝南、南郡までは、此れ西楚なり。其俗剽輕にして、怒を發し易し。地薄く積聚寡し。江陵は故の郢都なり。西、巫巴に通じ、東、雲夢の饒有り。陳は楚夏の交に在り、魚鹽の貨を通じ、其民賈多し。徐、僮、取慮は、則ち清刻にして已諾に矜る。彭城より以東、東海、吳、廣陵までは、此れ東楚なり。其俗徐僮に類す。胸繪以北の俗は則ち齊に、浙江の南は則ち越に。夫れ吳、闔廬、春申、王濼の三人より、天下の善游の子弟を招致す。東に海鹽の饒、章山の銅、三江五湖の利有り。亦江東の一都會なり。衡山、

魚鹽之貨。其民多賈。徐僮取慮。則清刻矜已諾。彭城以東。東海、吳廣陵。此東楚也。其俗類徐僮。胸繪以北。俗則齊。浙江南。則越。夫吳自闔廬。春申王濼。三人。招致天下之善游子弟。東有海鹽之饒。章山之銅。三江五湖之利。亦江東一都會也。衡山九江江南。豫章長沙。是南楚也。其俗大類西楚。郢之後徙壽春。亦一都會也。而合肥受南北。湖。皮革鮑木輪會也。與閩中于越雜俗。故南楚好辭巧說。少信。江南卑溼。丈夫早夭。多竹木。豫章出黃金。長沙出連錫。然董董物之所有。取之不足。以更費。

九江、江南、豫章、長沙は、是れ南楚なり。其俗大に西楚に類す。郢の後壽春に徙る。亦一都會なり。而して合肥は南北の湖を受け、皮革鮑木輪會す。閩中、于越と俗を雜ふ。故に南楚は好辭巧說して信少く、江南は卑溼にして、丈夫早く夭す。竹木多し。豫章は黄金を出だし、長沙は連錫を出だす。然れども董董にして物の有る所、之を取るに以て費を更ふに足らず。九疑、蒼梧より以南、僮耳に至るまでは、江南と大に俗を同じくす。而して楊越多し。番禺も亦其一都會なり。珠璣、犀、瑇瑁、果布の湊なり。

① 吳、越、楚の習俗を存せり ② 氣ばやくて ③ 楚と中國との間に在り ④ 清廉剽薄にして、然諾を重んずるを以て自慢となす ⑤ 仕官を願ふ子弟を招き密せて、文化を致す ⑥ 三江は、南江、北江、中江。五湖は、具區、洮湖、彭蠡、青草、洞庭 ⑦ 風俗互ひに入り雜れり ⑧ 言を飾り巧に説きて信實少く ⑨ 連は鉛の未だ鍊らざるもの、精製せざる鉛と錫と ⑩ 備少にして ⑪ 果物及び苧布

九疑蒼梧以南。至儋耳者。與江南大同俗。而揚越多焉。番禺亦其一都會也。珠璣犀瑁果布之湊。

穎川南陽夏人之居也。夏人政尚忠朴。猶有先王之遺風。穎川敦慝。秦末世遷。不軌之民於南陽。南陽西通武關。邯鄲。東南受漢江。淮。宛亦一都會也。俗雜好事。業多買。其任俠交通。穎川。故至今謂之夏人。夫天下物所鮮所

穎川、南陽は夏人の居なり。夏人は政、忠朴を尙ぶ。猶ほ先王の遺風有り。穎川は敦慝なり。秦の末世に、不軌の民を南陽に遷す。南陽は西、武關、邯鄲に通じ、東南漢江淮を受く、宛も亦一都會なり。俗雜り事を好む。業買多し。其任俠、穎川に交通す。故に今に至るまで之を夏人と謂ふ。夫れ天下の物鮮き所あり多き所あり。人民諠俗あり。山東は海鹽を食ひ、山西は鹽鹵を食ふ。嶺南、沙北は、固より往往鹽を出す。大體此くの如し。之を總ぶるに楚越の地は、地廣く人希に、稻を飯にし魚を羹にし、或ひは火耕して水耨し、果附贏蛤、賈を待たずして足り、地勢食饒く、饑饉の患無し。故を以て皆贏にして生を偷み、積聚無くして貧多し。是の故に江淮以南は、凍餓の人無く、亦千金の家無し。沂泗水より以北は、五穀桑麻六畜に宜しく、地小に人衆く、數々水旱の害を被る。民畜藏を

多。人民諠俗。山東食海鹽。山西食鹽鹵。嶺南沙北。固往往出鹽。大體如此矣。總之楚越之地。地廣人希。飯稻羹魚。或火耕而水耨。果附贏蛤。不待賈而足。地勢饒食。無饑饉之患。以故皆窳偷生。無積聚而多貧。是故江淮以南。無凍餓之人。亦無千金之家。沂泗水以北。宜五穀桑麻六畜。地小人衆。數被水旱之害。民好畜藏。故秦夏梁魯好農而重民。三河宛陳亦然。加以商賈。齊趙設智巧。仰機利。燕代田畜而事蠶。

好む。故に秦夏梁魯は、農を好みて民を重んず。三河宛陳も亦然り。加ふるに商賈を以てす。齊趙は智巧を設け、機利を仰ぎ、燕代は田畜して蠶を事とす。

- 忠實賢朴なるを尙べり
- 數厚謹慝なり
- 無謀人
- 事件のあるを喜ぶ
- 石鹽と地鹽と
- 枯葉を燒き土を掘り返すこと
- 灌溉除草すること
- 附は漢書に廣に作る、木實や草實
- 物事なげやりにして懶怠なること
- 財產家無し
- 耕作牧畜をなし

由此觀之。賢人深謀於廊廟。論議朝廷。守信死節。隱居巖穴之士。設爲名高者

此れに由りて之を觀れば、賢人の深く廊廟に謀り、朝廷に論議し、信を守り節に死し、隱居巖穴の士、名高を設爲する者は、安に歸する乎。富厚に歸するなり。是を以て廉吏も久久更に富み、廉賈も富に歸す。富は人の情性の、學ばずして俱に欲する所の者なり。故に壯士軍に在りて、城を攻めて先登し、陣を陥れ敵を卻

安歸乎。歸於富厚也。是以廉吏久久更富。廉賈歸富。富者人之情性。所不學而俱欲者也。故壯士在軍。攻城先登。陷陣卻敵。斬將奪旗。前蒙矢石。不避湯火之難。者爲重賞使也。其在閭巷。少年攻剽。椎埋劫人。作姦掘冢。鑄幣任俠并兼。借交報仇。篡逐幽隱。不避法禁。走死地如驚。其實皆爲財用耳。今夫趙女鄭姬。設形容。揆鳴琴。揄長袂。躡

け、將を斬り旗を奪り、前みて矢石を蒙り、湯火の難を避けざる者は、重賞の爲に使はるゝなり。其の閭巷に在る少年、攻剽椎埋して、人を劫し姦を作し、冢を掘り幣を鑄、任俠并兼し、交に借して仇を報じ、幽隱に篡逐して法禁を避けず、死地に走くこと驚するが如きは、其實皆財用の爲にするのみ。今夫れ趙女鄭姬、形容を設け、鳴琴を揆ち、長袂を揄き、利屣を躡み、目挑み心招き、出づるに千里を遠しとせず、老少を擇ばざる者は、富厚に奔るなり。游閑公子、冠劔を飾り、車騎を連ぬるも、亦富貴の爲に容づくるなり。

- 廟堂に在りて計謀し
- 名譽を世に揚げんとする者
- 年久しく仕官し
- 廉直なる商賈も家富む
- 熱湯烈火の難をも恐れざるは
- 民間に在る若者
- 錮削をなし、人を殺して土中に埋めて
- 貨幣を偽造し
- 人を従へて部下に屬せしめ
- 交友に命を借して仕返しをなし
- 威嚇して
- 舞履を穿き
- 目附を以て挑發し、心にて引寄せて
- 相手に老人少者を嫌はざるは
- 遊樂する貴族の君達
- 容貌を飾るなり

利屣。目挑心招。出不遠千里。不擇老少者。奔富厚也。游閑公子。飾冠劔。連車騎。亦爲富貴容也。

弋射漁獵。犯晨夜。冒霜雪。馳阬谷。不避猛獸之害。爲得味也。博戲馳逐。鬪雞走狗。作色相矜。必爭勝者。重失負也。醫方諸食。技術之人。焦神極能。爲重精也。吏士舞文弄法。刻章僞書。不避刀鋸之誅。者沒於賂遺也。農工商賈

弋射漁獵、晨夜を犯し、霜雪を冒し、阬谷に馳せ、猛獸の害を避けざるは、味を得んが爲なり。博戲馳逐し、雞を鬪し狗を走らし、色を作して相矜り、必ず勝を争ふ者は、失負を重んずるなり。醫方諸々の技術に食むの人、神を焦し能を極むるは、精を重んずる爲なり。吏士文を舞し法を弄し、章を刻み書を僞り、刀鋸の誅を避けざる者は、賂遺に没するなり。農工商賈畜長するは、固より富を求め貨を益すなり。此れ知盡し能索すこと有るのみ、終に力を餘して財を讓らず。諺に曰く、百里、樵を販がす、千里糶を販がす。之れに居ること一歳なれば、之れに種うるに穀を以てし、十歳なれば之れに樹うるに木を以てし、百歳なれば之を來たすに徳を以てすと。徳とは人物の謂なり。今秩祿の奉、爵邑の入無くして、而して樂み之比する者有り、命けて素封と曰ふ。封は租税を食む。歳ごとに率

畜長。固求富益貨也。此有知盡能索耳。終不餘力而讓財矣。諺曰。百里不販樵。千里不販糶。居之一歲。種之以穀。十歲樹之以木。百歲來之以德。德者人物之謂也。今有無秩祿之奉。爵邑之入。而樂與之比者。命曰素封。封者食租稅。歲率戶二百。千戶之君則二十萬。朝覲聘享出其中。庶民農工商買率亦歲萬。息二千戶。百萬之家則二十萬。而更徭租賦出其中。衣食之欲。恣所好美矣。

ね戸に二百、千戸の君には、則ち二十萬、朝覲聘享其中より出づ。庶民農工商買、率ね亦歲ごとに萬、息二千、百萬の家には、則ち二十萬、而して更徭租賦其中より出づ、衣食の欲は、好美する所に恣にす。

- 朝早くより夜遅くまで
- 大穴谷間に馳せ廻り
- 美味を得ん爲なり
- 雙六を打合ひ
- 顔色を變へて自負し
- 潛心焦慮して技術を盡すは
- 酬禮の財
- 法令規則をこじつけ變更し
- 官印官文書を偽造し
- 畜財にあくそくするは
- 全力を盡して利益を争ふ
- 百里の遠方に行きて焚木を賣らざ、千里の遠方に行きて、かひよねを販賣せずと、是れ費用多くして引合はざるを以てなり
- 其の場所に居ること
- 德を人物の上に樹つるの謂ひなり
- 諸侯の位なくして、諸侯の封土と同じき收入あるをいふ
- 利子
- 更は夫役、率更、踐更、過更の別有り。徭は徭役、力役の征

故曰。陸地牧馬二百蹄。牛蹄角千。千足

故に曰く、陸地の牧馬二百蹄、牛蹄角千、千足の羊、澤中千足の麋、水居千石の魚、山居千章の材、安邑千樹の棗、燕秦千樹の栗、蜀漢、江陵千樹の橘、淮北

羊。澤中千足。麋。水居千石。魚。山居千章。之材。安邑千樹。棗。燕秦千樹。栗。蜀漢江陵千樹。橘。淮河北常山。已南。河濟之間。千樹。萩。陳夏千樹。漆。齊魯千樹。桑。麻。渭川千畝。竹。及名國萬家之。城。帶郭千畝。畝。鍾之田。若千畝。扈。菑。千畦。薑。韭。此其。人皆與千戶侯等。然是富

常山已南、河濟の間千樹の萩、陳夏千畝の漆、齊魯千畝の桑麻、渭川千畝の竹、及び名國萬家の城、帶郭千畝、畝鍾の田、若しくは千畝の扈菑、千畦の薑韭、此れ其人皆千戸侯と等しと。然れども是れ富裕の資なり。市井を窺はず、異邑に行かず、坐して收を待つ。身、處士の義有りて、而して給を取る。若し家貧しく親老い、妻子軟弱にして、歳事以て祭祀する無く、飲食を進饌し、被服以て自ら通するに足らざるに至るも、此くの如きをしも慙恥せざるは、則ち比する所無し。是を以て財無きは力を作し、少しく有るは智を顯はし、既に饒なるは時を争ふ。此れ其の大經なり。今生を治むるに身を危くするを待たずして給を取るは、則ち賢人焉を勉む。是故に本富を上と爲し、末富之に次ぎ、姦富最も下なり。巖處奇士の行無く、而して長く貧賤にして、好みて仁義を語るは、亦羞づるに足る。

- 水邊の住居は千石の魚を得る陂潭
- 千株
- 河水と濟水との間
- 名高き國の繁昌の城下
- 畝毎に一鍾の收穫ある肥沃の田
- 町中を出て、歩かず
- 年中時々祖先の祭祀を爲すこと能はず
- 飲食物を多數の人の助力を仰ぎて僅かに其場を濟まし
- 人並の服裝すること能はざる境遇に至るも
- 世に比す可

給之資也。不窺市井。不行異邑。坐而待收。身有二處。士之義而取給焉。若至家貧親老。妻子軟弱。歲時無以祭祀。進醢飲食。被服不足。以自通。如此不慙恥。則無所比矣。是以無財作力。少有鬪智。既饒爭時。此其大經也。今治生不待危身取給。則賢人勉焉。是故本富爲上。末富次之。姦富最下。無嚴處奇士之行。而長貧賤。好語仁義。亦足羞也。

凡編戶之民。富相什則卑。下之。伯則長。僱之。千則役。萬則僕。物之理也。夫用貧求富。農不如工。工不如商。刺繡文。不如倚市門。此言末業貧者之

凡そ編戶の民、富相什すれば則ち之に卑下し、伯すれば則ち之を畏憚し、千すれば則ち役せられ、萬すれば則ち僕とせらるゝは、物の理なり。夫れ貧を用つて富を求むるは、農は工に如かず、工は商に如かず。繡文を刺すは、市門に倚るに如かずとは、此れ末業の貧者の資なるを言ふなり。通邑大都、酤すること一歳に千釐、醢醬千頃、醬千瓶、牛羊麋を屠ること千皮、穀を販ぎ糶ること千鍾、薪藥千車、船長さ千丈、木千章、竹竿萬个なり。其轎車百乘、牛車千兩、木器の槩者千枚、銅器千鈞、素木鐵器若しくは厄茜千石、馬蹄千、牛千足、羊麋千雙、

きものありとも思はれず ① 時を迫り利を争ふ ② 貧殖家の務むべき方法の大略なり ③ 農業に従事して富を致す者 ④ 商業に従事して富を致す者 ⑤ 姦巧にして智を嗣はして富む者

資也。通邑大都。酤一歲千釐。醢醬千頃。羊麋千皮。販穀千鍾。薪藥千車。船長さ千丈。木千章。竹竿萬个。其轎車百乘。牛車千兩。木器槩者千枚。銅器千鈞。素木鐵器若厄茜千石。馬蹄千。牛千足。羊麋千雙。僮手指千。筋角丹沙千斤。其帛絮細布千鈞。文采千匹。榻帝皮革千石。漆千斗。藁麴鹽鼓千荅。鮐魚千斤。漚千石。鮑千鈞。

僮の手指千、筋角丹沙千斤、其帛絮細布千鈞、文采千匹、榻帝皮革千石、漆千斗、藁麴鹽鼓千荅、鮐魚千斤、漚千石、鮑千鈞、棗栗千石の者之を三にし、狐貉の裘千皮、羔羊の裘千石、旃席千具、佗の果菜千鍾、子貸の金錢千貫、駟會を節するに、貪賈は之を三にし、廉賈は之を五にす。此れ亦千乗の家に比す。其大率なり。佗の難業仕の二に中らざるは、則ち吾が財に非ざるなり。請ふ略々當世千里の中の、賢人の富む所以の者を道ひて、後世をして以て觀擇することを得しめむ。

- ① 庶民 ② 我れより十倍すれば ③ 百倍すれば ④ 自然の道理なり ⑤ 刺繡を職業とするは市場に於てするに及ばず ⑥ 四通八達交通便利なる大都會 ⑦ 酒を賣ると ⑧ 鹽 ⑨ 錢大昕曰く、頃に作るべしと。説文「塩は器に似て長頸十升を受く」 ⑩ 一石を容る、大瓶 ⑪ 一匹の馬にて引く小車 ⑫ 木地のまの器 ⑬ 紅、あかねぐさ ⑭ 藪は藪。馬には四蹄九竅あり、故に蹄藪千二は七十七頭に當る、千とは其の大數をいへるもの ⑮ 粗厚の布 ⑯ 合に通ず ⑰ 河豚と太刀魚と ⑱ 雜小魚 ⑲ 三千石 ⑳ 毛氈
- ㉑ 利子附の貸金 ㉒ 會は倫、市場にて相場を計らひて品物を賣るに ㉓ 三割の利益を得 ㉔ 五割の利益を得 ㉕ 千里四方の中 ㉖ 觀て宜しきを探はしめん

粟千石者三之。狐貂裘千皮。羔羊裘千石。麻席千具。它果菜千鍾。子貸金錢千貫。節用會食買三之。廉買五之。此亦比二千乘之家。其大率也。它難業不中什二。則非吾財也。訪略道當世千里之中。賢人所以富者。令後世得以觀擇焉。

蜀卓氏之先。趙人也。用鐵冶富。秦破趙遷卓氏。卓氏見虜略。獨夫妻推輦行詣遷處。諸遷虜少有餘財。爭與吏求近處。處葭萌。唯卓氏曰。此地狹薄。吾聞汶山下沃野。下有蹲鴟。至死不飢。民工於市。易買。乃求遠遷。致之臨邛。大喜。即鐵山鼓鑄。運籌策傾瀛。蜀之民富。至僮千人。田池射

蜀の卓氏の先は趙の人なり。鐵冶を用つて富む。秦、趙を破りて、卓氏を遷す。卓氏虜略せられ、獨り夫妻輦を推し、行きて遷處に詣る。諸遷虜の少しく餘財有るは、争ひて吏に與へ、近處を求めて、葭萌に處る。唯卓氏は曰く、此地は狹薄なり。吾聞く汶山の下に沃野あり。下、蹲鴟有りて、死に至るまで飢えず、民、市に工にして易買すと。乃ち遠く遷るを求む。之を臨邛に致す。大に喜び、鐵山に即きて鼓鑄す。籌策を運し、瀛蜀の民を傾く。富僮千人に至り、田池射獵の樂み、人君に擬す。

● 捕虜となりて、財物を奪略せらる ● 遷さるゝ地 ● 葭萌縣 ● 土地狭くして地味瘠す ● 大なる芋、其形大にして鴨の蹲るが如くなればいふと ● 壓倒す

獵之樂。擬於人君。

程鄭山東遷虜也。亦冶鑄。買椎髻之民。富埒卓氏。俱居臨邛。宛孔氏之先。宛人也。用鐵冶爲業。秦伐魏。遷孔氏南陽。大鼓鑄。規陂池。連車騎。游諸侯。因通商賈之利。有游閑公子之賜。與名。然其贏得過當。愈於織。家致富數千金。故

程鄭は山東の遷虜なり。亦冶鑄して、椎髻の民に賈す。富卓氏に埒し。俱に臨邛に居る。

● 遷されたる捕虜 ● 南越の民、南越の風俗頭髮を椎の形に束ねたればいふ

宛の孔氏の先は、梁の人なり。鐵冶を用て業と爲す。秦、魏を伐ちて、孔氏を南陽に遷す。大に鼓鑄し、陂池を規す。車騎を連ねて諸侯に遊び、因りて商賈の利を通す。游閑公子の賜與の名有り。然れども其贏得過當、織畜に愈れり。家富を致すこと數千金、故に南陽の行賈は、盡く孔氏の雍容に法る。魯人の俗儉畜にして、而して曹の邠氏尤も甚だし。鐵冶を以て起り、富巨萬に至る。然れども家、父兄子孫より約す。俛せば拾ふこと有れ、仰げば取ること有れと。賈貸行賈、郡國に徧し。邠魯其故を以て、文學を去りて利に趨る者多し。曹の邠氏を以てなり。

南陽行買盡
法孔氏之雍
容魯人俗儉
而曹邴氏
尤甚以鐵冶起富至巨萬然家自父兄子孫約俛有拾仰有取賈貸行買徧郡國鄒魯以其故多去文學而趨利者以曹邴氏也

- 陵池田園を多く所有す
- 游閑公子の豐饒を借りて、大に商賈をなして利益を得
- 莫大の利益を得
- けちくさき商人より多くの利益を得たり
- 商業振を模範となす
- 家法として父兄子孫と相約して曰く
- 金貨、行商

齊俗賤奴虜
而刁間獨愛
貴之桀黠奴
人之所患也
唯刁間收取
使之逐漁鹽
商賈之利或
連車騎交守
相然愈益任
之終得其力
起富數千萬

齊の俗奴虜を賤しむ。而して刁間は獨り之を愛貴す。桀黠の奴は人の患ふる所なり。唯刁間收取りて、之をして漁鹽商賈の利を逐はしむ。或ひは車騎を連ねて守相に交る。然れども愈々益々之に任じ、終に其力を得、富を起すこと數千萬なり。故に曰く、寧爵か毋刁かと。其能く豪奴をして自ら饒にして其力を盡さしむるを言ふなり。周人既に織にして、師史尤も甚だし。轂を轉すること百を以て數へ、郡國に買して至らざる所無し。洛陽の街は、齊、秦、楚、趙の中に居在す。貧人學び富家に事ふるに、相矜るに久賈を以てす。數々邑を過ぐれども門に

故曰寧爵毋
刁言其能使
豪奴自饒而
盡其力周人
既織而師史
尤甚轉轂以
久賈數過邑
不入門設任
此等故師史
能致七千萬

入らず、此等に設任す。故に師史能く七千萬を致す。

- 太守宰相と交際す
- 自身富裕ならしめて
- 甚だ節儉にして
- 貨物を載せたる商車の甚だ多數なるをいふ
- 永年行商に従事する事を以てす
- 我家にも立寄らざ
- 委任

宣曲任氏之
先爲督道倉
吏秦之敗也
豪傑皆爭取
金玉而任氏
獨審倉粟楚
漢相距滎陽
也民不得耕
種米石至萬
而豪傑金玉
盡歸任氏任

宣曲の任氏の先は、督道の倉吏たり。秦の敗るゝや、豪傑皆争ひて金玉を取る。而して任氏は獨り倉粟を審にす。楚漢の滎陽に相距ぐや、民耕種することを得ず、米は石、萬に至る。而して豪傑の金玉盡く任氏に歸す。任氏此を以て富を起す。富人奢侈を争ひて、任氏は節を折りて儉を爲し、田畜を力む。田畜は人争ひて賤賈を取る。任氏は獨り貴善を取り、富む者數世なりき。然して任公の家約あり。田畜の出だす所に非ざれば、衣食せず。公事畢らずんば、則ち身、酒を飲み肉を食ふことを得ずと。此を以て閭里の率と爲る。故に富みて主上之を重んず。

氏以此起富。富人爭奢修。而任氏折節。爲儉力田畜。田畜人爭取。賤買任氏獨取。貴善富者數世。然任公家約。非田畜所出。弗衣食。公事不畢。則身不得飲酒。食肉。以此爲閭里率。故富而主上重之。塞之斥也。唯橋姚已致馬千匹。牛倍之。羊萬頭。粟以萬鍾計。吳楚

塞の斥くるや、唯り橋姚のみ馬千匹を致し、牛之に倍し、羊萬頭、粟萬鍾を以て計る。吳楚七國の兵起る時、長安中の列侯封君、行きて軍旅に従ひ、子錢を齎貸す。子錢の家以爲らく、侯の邑國は關東に在り、關東の成敗未だ決せずと。肯へて與ふる莫し。唯り無鹽氏千金を出捐して貸す。其息は之を什にす。三月にして吳楚平らぐ。一歳の中、則ち無鹽氏の息什倍す。此を用て富關中に峙し。關中の富商大賈は、大抵盡く諸田なり。田畜、田蘭、韋家栗氏、安陵杜の杜氏も亦巨萬なり。此れ其の章章として尤も異なる者なり。皆爵邑奉祿有るに非ず、法を弄し姦を犯して富む。盡く椎埋去就、時と俯仰し、其贏利を獲、末を以て財を致し、本を用つて之を守り、武を以て一切し、文を用つて之を持す。變化概有り。故に術ふるに足るなり。若し農畜工虞、商賈を力め、權利を爲し以て富を成すに至りては、大にしては郡を傾け、中にしては縣を傾け、下にしては郷里を傾くる者、勝けて數ふ可からず。

- 地名といひ或ひは官名なりと
- 地名。或ひは縣名と。顏師古は、京師四方諸道に於て其租を督するものと
- 穴倉を穿ちて蓄藏す
- 耕作牧畜
- 安價なる下等品を買取る
- 高價の上等品を買取り
- 官の要務
- 稅率者と爲る
- 滿の匈奴を擊退して國境を開拓するに當りて
- 征討の軍に従ひ
- 金貸業者につきて金を借る
- 投出して
- 田氏の一族なり
- 明らかに
- 身の進退去就は時世に順應して爲し
- 武力を以て斷行し
- 節あり

七國兵起時。長安中列侯封君。行從軍。族。齎。子錢。子錢家以爲侯。邑國在關東。關東成敗未決。莫肯與。唯無鹽氏出捐千金貸。其息什之。三月吳楚平。一歳之中。則無鹽氏之息什倍。用此富埒關中。關中富商大賈。大抵盡諸田。田畜田蘭。韋家栗氏。安陵杜杜氏亦巨萬。此其章章尤異者也。皆非有爵邑奉祿。弄法犯姦而富。盡椎埋去就。與時俯仰。獲其贏利。以未致財。用本守之。以武一切。用文持之。變化有概。故足術也。若至力農畜工虞商賈。爲權利。以成富。大者傾郡。中者傾縣。下者傾郷里者。不可勝數。

夫織膏筋力。治生之正道也。而富者必用奇勝。田農拙業。而秦陽以蓋一州。掘

夫れ織膏筋力は、生を治むるの正道なり、而れども富者は必ず奇を用つて勝つ。田農は拙業なり、然れども秦陽は以て一州を蓋ふ。冢を掘くは姦事なり、而れども田叔以て起る。博戲は惡業なり、而れども桓發は之を用つて富む。行賈は丈夫の賤行なり、而れども雍樂成は以て饒なり。脂を販ぐは辱づる處なり、而れど

冢姦事也。而曲叔以起。博戲惡業也。而桓發用之富。行賈丈夫賤行也。而雍樂成以饒。販脂辱處也。而雍伯千金。賣漿小業也。而張氏千萬。酒削薄技也。而郵氏鼎食。胃脯簡微耳。濁氏連騎。馬醫淺方。張里擊鍾。此皆誠壹之所致。由是觀之。富無經業。則貨無常主。能者輻湊。不肖者瓦解。千金之家比一都之君。巨萬者乃與王者同樂。豈所謂素封者邪。非也。

も雍伯は千金、漿を賣るは小業なり、而れども張氏は千萬あり。酒削は薄技なり、而れども郵氏は鼎食す。胃脯は簡微のみ、濁氏は騎を連ぬ。馬醫は淺方なり、張里は鍾を撃つ。此れ皆誠壹の致す所なり。是に由りて之を觀れば、富に經業無く、則ち貨に常主無し。能者は輻輳し、不肖者は瓦解す。千金の家は、一都の君に比し、巨萬なる者は、乃ち王者と樂を同じくす。豈に謂はゆる素封なる者邪、非也。

- 筋力を勞すること
 - 奇變を以て富を爲す
 - 州中第一位を占む
 - 惡事なり
 - 些細の商業なり
 - 刀磨は輕き業なり
 - 美食す
 - 羊の胃の脯を賣るは
 - 淺薄なる方技
 - 人を呼び、食事をする
- 際には、鐘を鳴らして報ずる程の多勢の牛活をなせり
- 財貨には定りたる持主なし

不肖者瓦解。千金之家比一都之君。巨萬者乃與王者同樂。豈所謂素封者邪。非也。

卷百三十

太史公自序第七十

昔在顓頊命南正重以司天。北正黎以司地。唐虞之際。紹重黎之後。使復典之。至于夏商。故重黎氏世序天地。其在周程伯休甫其後也。當周宣王時。失其守。而爲司馬氏。司馬氏世典周史。惠襄之

昔在顓頊、南正重に命じて以て天を司らしめ、北正黎を以て地を司らしむ。唐虞の際、重黎の後を紹がしめて、復た之を典らしめて、夏商に至る。故に重黎氏世々天地を序づ。其の周に在りては、程伯休甫は其後なり。周の宣王の時に當り、其守を失ひて司馬氏と爲る。司馬氏世々周史を典る。惠襄の間に司馬氏周を去りて晉に適く。晉の中軍隨會秦に奔るや、而して司馬氏少梁に入る。司馬氏の周を去りて晉に適きしより、分散して或ひは衛に在り、或ひは趙に在り、或ひは秦に在り。其の衛に在る者は、中山に相たり。趙に在る者は、劍論を傳ふるを以て顯る。制職は其後なり。秦に在る者は、名は錯、張儀と爭論す。是に於て惠王、錯をして將として蜀を伐たしむ。遂に拔く。因りて之に守たり。錯の孫

間。司馬氏去。周適晉。晉中軍隨會奔秦。而司馬氏入。少梁。自司馬氏去。周適晉。分散或在衛。或在趙。或在秦。其在衛者相中山。在趙者以傳。劔論。顯。劔其後也。在秦者名錯。與張儀爭論。於是惠王使錯將伐蜀。遂拔。因而守之。錯孫靳事武安君白起。而少梁更名曰夏陽。靳與武安君。阮。趙長平軍。還而與之俱。賜死杜郵。葬於華池。靳孫昌。昌為秦主鐵官。常始皇之時。劔。孫印。為武信君將。而徇朝歌。諸侯之相王。王印於殷。漢之伐楚。印歸漢。以其地為河內郡。昌生無澤。無澤為漢市長。無澤生喜。喜為五大夫。卒。皆葬高門。喜生談。談為太史公。

靳、武安君白起に事ふ。而して少梁名を更めて夏陽と曰ふ。靳、武安君と趙の長平の軍を阮にす。還りて之と俱に死を杜郵に賜はる。華地に葬る。靳の孫は昌、昌は秦の主鐵官と爲る。始皇の時に當りて、劔、劔の玄孫印、武信君の將と爲りて、朝歌を徇ふ。諸侯の相王となるや、印を殷に王とす。漢の楚を伐つや、印漢に歸す。其地を以て河内郡と爲す。昌、無澤を生む。無澤漢の市長と爲る。無澤、喜を生む。喜五大夫と爲る、卒す。皆高門に葬る。喜、談を生む。談、太史公と爲る。

- 南正重と北正黎との子孫をして、其職を絶がしめて
- 職守を失ひて
- 周室の記録
- 中軍の將
- 各所に分れて住み
- 劔劔論
- 攻め下す
- 阮地にす
- 殷の古都今の河南郡淇縣

太史公學天官於唐都。受易於楊何。習道論於黃子。太史公仕於建元。元封之間。愍學者之不達其意。而師悖。乃論六家之要。指曰。易大傳。天下一致。而百慮同歸。而殊塗。夫陰陽儒墨名法道德。此務爲治者也。直所從言之。異路。有省不省耳。嘗竊觀陰陽之術。大

太史公、天官を唐都に學び、易を楊何に受け、道論を黃子に習ふ。太史公建元元年封の間に仕ふ。學者の其意に達せずして師に悖るを感み、乃ち六家の要指を論じて曰く、易の大傳に、天下は致を一にして慮を百にし、歸を同じくして塗を殊にすと。夫れ陰陽儒墨、名法道德は、此れ務めて治を爲す者なり。直從りて言ふ所の路を異にして、省と不省と有るのみと。嘗て竊に陰陽の術を観るに、大祥にして忌諱衆く、人をして拘はれて畏るゝ所多からしむ。然れども其の四時の大順を序するは、失ふ可からざるなり。儒は博にして要寡く、勞して功少し。是を以て其事盡くは從ひ難し。然れども其の君臣父子の禮を序し、夫婦長幼の別を列するは、易ふ可からざるなり。墨は儉にして遵ひ難し。是を以て其事徧く循ふ可からず、然れども其の本を彊くし用を節するは、廢す可からざるなり。法家は嚴にして恩少し。然れども其の君臣上下の分を正すは、改む可からず。名家は人をして儉にして善く眞を失はしむ。然れども其の名實を正すは、察せざる可からざ

祥而衆忌諱。使二人拘而多所畏。然其序四時之大順。不可失也。儒者博而寡要。勞而少功。是以其事難盡。從然其序。君臣父子之禮。列夫婦長幼之別。不可易也。墨者儉而難遵。是以其事不可偏循。然其疆本節用。不可廢也。法家嚴而少恩。然其正君臣上下之分。

るなり。道家は人をして精神專一ならしめ、動きて無形に合ひ、萬物を贍足す。其の術たるや、陰陽の大順に因り、儒墨の善を采り、明法の要を撮み、時と遷移し、物に應じ變化し、俗を立て事を施す。宜しからざる所無し。指約にして操り易く、事少くして功多し。儒は則ち然らず。以爲らく人主は天下の儀表なり。主倡へて臣和し、主先ちて臣隨ふと。此の如きは則ち主勞して臣逸す。大道の要に至りては、健羨を去り、聰明を緝け、此を釋てて術に任ず。

- 漢儀注「太史公武帝置、位在丞相上、天下計書先上太史公、副上丞相、序事如古春秋、遷死後、宣帝以官爲令、行太史公文書而已」錢大昕は曰く、官名
- 天文
- 道家の學
- 陰陽家、儒家、墨家、刑名家、法家、道德家
- 主要なる旨趣
- 繫辭得
- 主旨は一致なれども、然れども各人思慮を異にすること種々にして
- 歸著する處は同じくして、行ふ上の方法は殊なり
- 刑名家の學、法家の學、道家の學
- 大に詳細にして忌諱する處多く
- 其説に拘泥して
- 主要の事寡く
- 變改す可からざるなり
- 基本を養ひて強固にし
- 人を惑む點に於て缺點あり
- 名と實とを一々あてはめて正す所は
- 注意して察せざる可からざるなり
- 名の誤り
- 其旨趣簡單にして執持ちて守り易く
- 天下萬民の手本なり
- 健は雄を知りて雌を守ること、羨は貪り欲すること

不可改矣。名家使入儉而善失其真。然其正名實。不可不察也。道家使入精神專一。動合無形。贍足萬物。其爲術也。因陰陽之大順。采儒墨之善。撮名家之法。之要。與時遷移。應物變化。立俗施事。無所不宜。指約而易操。事少而功多。儒者則不然。以爲人主天下之儀表也。主倡而臣和。主先而臣隨。如此則主勞而臣逸。至於大道之要。去健羨。緝聰明。釋此而任術。

夫神大用則竭。形大勞則敝。形神騷動。欲與天地長久。非所聞也。夫陰陽四時。八位。十二度。二十四節。各有教令。順之者昌。逆之者不。死則亡。未必然也。故曰。使人拘而多

夫れ神大に用ふれば則ち竭き、形大に勞すれば則ち敝る。形神騷動して、天地と長久なるを欲するは、聞く所に非ざるなり。夫れ陰陽は四時、八位、十二度、二十四節、各々教令有り。之に順ふ者は昌え、之に逆ふ者は死せずんば則ち亡ぶと。未だ必ずしも然らず。故に曰く、人をして拘れて畏れ多からしむと。夫れ春生じ夏長じ、秋收め冬藏す、此れ天道の大經なり。順はざれば則ち以て天下の綱紀と爲る無し。故に曰く、四時の大順は、失ふ可からざるなり。夫れ儒は六藝を以て法と爲す。六藝の經傳は、千萬を以て數ふ。累世にも其學に通すること能はず、當年にも其禮を究むること能はず。故に曰く、博にして要寡く、勞して功少

畏。夫春生夏長。秋收冬藏。此天道之大經也。弗順則無以爲天下綱紀。故曰。四時之大順。不可失也。夫儒者以六藝爲法。六藝經傳以千萬數。累世不能通其學。當年不能究其禮。故曰。博而寡要。勞而少功。若夫列君臣父子之禮。序夫婦長幼之別。雖百家弗能易

しと。若し夫れ君臣父子の禮を列し、夫婦長幼の別を序するは、百家と雖ども易ふること能はず。墨者も亦堯舜の道を尙び、其徳を言行ふ。曰く堂の高さ三尺、土階三等、茅茨翦らず、采椽刮らず。土簋に食ひ、土邢に啜る。糲梁の食、藜藿の羹なり。夏日は葛衣し、冬日は鹿裘す。其の死を送るには、桐棺三寸、音を擧ぐるも其哀を盡さず、喪禮を教ふる、必ず此を以て萬民の率と爲すと。天下の法をして此くの如くならしめば、則ち尊卑別無きなり。夫れ世異なり時移り、事業必ずしも同じからず。故に曰く、儉にして遵ひ難しと。要に曰く、本を彊くし用を節すと。則ち人給し家足るの道なり。此れ墨子の長ずる所にして、百家と雖ども廢すること能はざるなり。

- 神氣 ● 形體 ● 八位は、八卦の位。即ち乾、兌、離、震、坎、艮、坤 ● 十二支 ● 二十四節は、立春、雨水、驚蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、處暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒 ● 其教條 ● 萬物を生じ ● 成長し ● 實れるを取入れ ● 藏め蓄ふ ● 法則 ● 經書と其註釋書とは ● 丁年 ● 百家の説有りと雖も變易すること能はず ● 土の階段 ● 茅葺屋根

也。墨者亦尙堯舜道。言其德行。曰。堂高三尺。土階三等。茅茨不翦。采椽不刮。食土簋。啜土刑。糲梁之食。藜藿之羹。夏日葛衣。冬日鹿裘。其送死。桐棺三寸。學音不盡其哀。教喪禮。必以此爲萬民之率。使天下法若此。則尊卑無別也。夫世異時移。事業不必同。故曰。儉而難遵。要曰。彊本節用。則人給家足之道也。此墨子之所長。雖百家弗能廢也。

- として、しかも其茅の根を翦り揃へず ● 柞の椽は刮らずそのまゝにて用ひ ● 土製にて内圓く外四角なる飯器 ● 土製の兩耳三足の飲器 ● 玄米や稷 ● 音を擧げて哭するにも、其哀の極を盡さず ● 法則 ● 人毎に足り家毎に足りて不足なきこと

法家不別親疎。不殊貴賤。一斷於法。則親親尊尊之恩絶矣。可三以行一時之計。而不可長用也。故曰。嚴而少恩。若下尊主卑臣。明二分職

法家は親疎を別たす、貴賤を殊にせず、一に法に斷ず。則ち親を親み尊を尊ぶの恩絶ゆ。以て一時の計を行ふ可けれども、而も長く用ふ可からず。故に曰く、嚴にして恩少しと。主を尊び臣を卑み、分職を明かにして、相踰越すること得ざるが若きは、百家と雖ども改むること能はず。名家は苛察繳繞、人をして其意に反することを得ざらしむ。専ら名に決して人情を失ふ。故に曰く、人をして儉にして善く眞を失はしむ。若し夫れ名を控き實を責め、參伍して失はざるは、此

不得相踰越。雖百家弗能改也。名家苛察繳繞。使人不得反其意。專決於名。而使人儉而善。失其真。若夫控名責實。參伍不。此不可不察也。道家無爲。又曰。無不爲。其實易行。其辭難知。其術以虛無爲本。以因循爲用。無成勢。無常形。故能究萬物之情。不爲物先。不爲物後。故能爲萬物主。有法無法。因時爲業。有度無度。因物與合。故曰聖人不朽。時變是守。

れ察せざる可からざるなり。道家は無爲と。又曰く、爲さざるなしと。其實行ひ易く、其辭知り難し。其術は虚無を以て本と爲し、因循を以て用と爲す。成勢無く、常形無し。故に能く萬物の情を究む。物の先たらず、物の後たらず。故に能く萬物の主たり。法有りて法無く、時に因りて業を爲す。度有りて度無く、物に因りて與に舍る。故に曰く、聖人は巧ならず、時變是れ守ると。

- ① 一切法律によりて處断す
- ② 恩義絶ゆ
- ③ 分限嚴守
- ④ 論理の推究にのみ嚴しく却りて大體に通ぜず
- ⑤ 専ら名義にのみ偏して
- ⑥ 名義を引き事實の之に伴ふ可きを責め
- ⑦ 參錯交互して失はざる點は
- ⑧ 其の實際は、人々各自其自然に違ふことなれば行ひ易く
- ⑨ 幽深微妙にして知り難し
- ⑩ 其方法は
- ⑪ 自然に任ずることを以て
- ⑫ 一定の勢
- ⑬ 一定の形
- ⑭ 萬物の眞情
- ⑮ 物によりて制を爲せば、物の後入もつかず前にも立たず
- ⑯ 時に隨ひて法を立て、業を爲す
- ⑰ 合、一本により舍に改む。萬物の形によりて度を成して與に居る
- ⑱ 漢書に従ひ巧に改む
- ⑲ 時變を守りて之に順ふ

虚者道之常也。因者君之網也。羣臣並至。使各自明也。其實中其聲者謂之竅。竅者謂之竅。竅言不聽。竅乃不生。賢不肖自分。白黑乃形。在所不欲用耳。何事不成。乃合大道。混混冥冥。光耀天下。復反無名。凡人所生者神也。所託者形也。神大用則竭。形大

虚は道の常なり、因は君の網なり。羣臣並に至り、各々自ら明かならしむ。其實其聲に中る者は、之を端と謂ひ、實其聲に中らざる者は、之を竅と謂ふ。言聽かざれば、竅乃ち生ぜず。賢不肖自ら分るれば、白黒乃ち形る。用ひんと欲する所に在るのみ、何事か成らざらん。乃ち大道に合し、混混冥冥として、天下に光耀し、無名に復反す。凡そ人の生ずる所の者は神なり、託する所の者は形なり。神大に用ふれば則ち竭き、形大に勞すれば則ち敝る。形神離るれば死す。死する者は復た生く可からず、離るる者は復た反る可からず。故に聖人之を重んず。是に由りて之を觀れば、神は生の本なり、形は生の具なり。先づ其神を定めずして、而して我れ以て天下を治むること有らんと曰ふは、何に由る哉と。

- ① 自然なり
- ② 自然に順ひて行ふことは君の法度なり
- ③ 至りて仕へ
- ④ 各自に其伎倆を明かならしむ
- ⑤ 其行の實績が其議論に適中するものは
- ⑥ 空
- ⑦ 實行の伴はざる空言
- ⑧ 分明なれば
- ⑨ 物事の是非あらはる
- ⑩ 選擇採用することを得
- ⑪ 混然として何とも形容すること能はずして
- ⑫ 名づく可きやうなきこと
- ⑬ 神氣
- ⑭ 形體
- ⑮ 神氣と形體とを尊重す
- ⑯ 機關

勞則敝。形神離則死。死者不可復生。離者不可復反。故聖人重之。由是觀之。神者生之本也。形者生之具也。不先定其神。而曰我有以治天下。何由哉。

太史公。既掌天官。不治民。有子曰。遷。遷。生龍門。耕。牧。河山之陽。年十歲。則誦古文。二十而南游。江淮。上會稽。探禹穴。闚九疑。浮於沅湘。北涉汶泗。講業齊魯之都。觀孔子之遺風。鄉射鄒嶧。尼困鄆薛。彭城。過梁楚。以歸。於是遷

太史公既に天官を掌りて民を治めず。子有り遷と曰ふ。遷は龍門に生れ、河山の陽に耕牧す。年十歳にして、則ち古文を誦し、二十にして南のかた江淮に遊び、會稽に上り、禹穴を探り、九疑を闚ひ、沅湘に浮び、北のかた汶泗を涉り、業を齊魯の都に講じ、孔子の遺風を觀、鄒嶧に郷射し、鄆、薛、彭城に尼困す。梁楚を過ぎて以て歸る。是に於て遷仕へて郎中と爲り、使を奉じて西のかた巴蜀以南を征し、南のかた印、笮、昆明を略し、還りて報命す。是歳天子始めて漢家の封を建つ。而して太史公周南に留滞して、に事與從ふことを得ず。故に憤を發して且に卒せんとす。而るに子遷適々使して反り、父に河洛の間に見ゆ。太史公、遷の手を執りて泣きて曰く、余の先は周室の太史なりき。上世嘗て功名を虞夏に顯し、より、天官の事を典る、後世中ごろ衰ふ。予に絶えん乎。汝復た太史と爲らば、則ち吾が祖に續け。

今天子千歳の統を接ぎ、泰山を封じて、而して余行に従ふことを得ず、是れ命なるかな。命なるかな。余死せば、汝必ず太史たらん、太史たらば、吾が論著せんと欲する所を忘るゝこと無かれ。且つ夫れ孝は親に事ふるに始り、君に事ふるに中し、身を立つるに終る。名を後世に揚げて、以て父母を顯す、此れ孝の大なるものなり。

- 天文 ● 耕耘牧畜ナ ● 江水、淮水 ● 沅水、湘水 ● 汶水、泗水 ● 郷射の禮を演習シ ● 漢家
- 封禪の禮を行ひ天地を祀る ● 先祖の事業を續けよ

仕爲郎中。奉使西征。巴蜀以南。南略。印笮。昆明。還報命。是歳天子始建漢家之封。而太史公留滞周南。不發憤且卒。而子遷適使反。見父於河洛之間。太史公執遷手而泣曰。余先周室之太史也。自三世嘗顯功名於虞夏。典天官事。後世中衰。絶於予乎。汝復爲太史。則續吾祖矣。今天子接千歲之統。封泰山。而余不得從行。是命也。夫。命也。夫。余死。汝必爲太史。爲太史。無忘吾所欲論著矣。且夫孝始於事親。中於事君。終於立身。揚名於後世。以顯父母。此孝之大者。

夫天下稱誦周公。言其能論歌文武之德。宜周邵之風。遂太王王

夫れ天下の周公を稱誦するは、其の能く文武の徳を論歌し、周邵の風を宣し、太王王季の思慮を達し、爰に公劉に及びて、以て后稷を尊ぶを言ふなり。幽厲の後、王道缺け、禮樂衰ふ。孔子舊を修め廢を起し、詩書を論じ、春秋を作る。則ち學

季之思慮。爰及公劉。以尊中後稷也。幽厲之後。王道缺。禮樂衰。孔子修舊起廢。論詩書。作春秋。則學者至今則之。自獲麟以來。四百有餘歲。而諸侯相兼。史記放絕。今漢興。海內一統。明主賢君。忠臣死義之士。余爲太史而弗論載。廢天下之史文。余甚懼焉。汝其念哉。遷俯首流涕曰。小子不敏。請悉論先人所次舊聞。弗敢闕。卒三歲而遷爲太史令。袖史記石室金匱之書。五年而當太初元年。十一月甲子朔旦冬至。天歷始改。建於明堂。諸神受紀。

者今に至るまで之に則る。獲麟より以來、四百有餘歲なり。而して諸侯相兼ねて、史記放絶す。今漢興り海内一統し、明主賢君、忠臣義に死するの士あり。余太史と爲りて論載せず、天下の史文を廢す。余甚だ懼る。汝其れ念へやと。遷首を俯し涕を流して曰く、小子不敏なれども、請ふ悉く先人の次する所の舊聞を論じて、敢へて闕かじと。卒して三歳にして、遷太史令と爲り、史記、石室金匱の書を袖くこと、五年にして太初元年に當る。十一月甲子朔旦冬至、元歴始めて改まる。明堂を建つ。諸神紀を受く。

● 稱め誦するは ● 周南召南の詩の意を宣揚し ● 幽王、厲王 ● 魯の哀公西狩して騶を獲たるに筆を絶ちしより以來 ● 相互に力攻して ● 次第序列する所の舊聞を論載著述して ● 史記を初めとして石室金匱の中に所藏せる處の書を緝ね調ぶること ● 各部、山川の祀を行ふ

太史公曰。先人有言。自周公卒。五百歲而有孔子。孔子卒後。至於今。五百歲。有下能紹明世。正易傳。繼春秋。本詩書禮樂之際。意在斯乎。乎。意在斯乎。小子何敢讓焉。上大。夫壺遂曰。昔孔子何爲而作春秋哉。太史公曰。余聞董生曰。周道衰廢。孔子爲魯司寇。諸侯害之。

太史公曰く、先人言へること有り。周公卒してより、五百歳にして孔子有り。孔子卒して後、今に至りて五百歳なり。能く明世に紹ぎ、易傳を正し、春秋を繼ぎ、詩書禮樂の際に本づくること有らんと。意斯に在る乎、意斯に在る乎。小子何ぞ敢へて讓らん。上大。夫壺遂曰く、昔孔子は何の爲にして春秋を作れる哉と。太史公曰く、余、董生に聞く、曰く、周道衰廢して、孔子魯の司寇と爲り、諸侯之を害み、大夫之を堊ぐ。孔子言の用ひられず道の行はれざるを知るや、二百四十二年の中を是非して、以て天下の儀表と爲す。天子を貶し、諸侯を退け、大夫を封じ、以て王事を達するのみと。子曰く、我れ之を空言に載せんと欲せしも、之を行事に見すの深切著明なるに如かずと。夫れ春秋は、上、三王の道を明かにし、下、人事の紀を辨じ、嫌疑を別ち、是非を明かにし、猶豫を定め、善を善とし惡を惡とし、賢を賢とし不肖を賤み、亡國を存し、絶世を繼ぎ、敝を被ひ廢を起す。王道の大なる者なり。

大夫猶之。孔子知言之不行。道之不行也。是非二百四十二年之中。以爲天下儀表。貶天子。退諸侯。封大夫。以達王事而已矣。子曰。我欲載之空言。不如見之於行事之深切著明也。夫春秋上明三王之道。下辨人事之紀。別嫌疑。明是非。定猶豫。善善惡惡。賢賢賤不肖。存亡國。繼絕世。補敝起廢。王道之大者也。

易著天地陰陽四時五行。故長於變。禮經紀人倫。故長於行。書記先王之事。故長於政。詩記山川谿谷禽獸草木。牝牡雌雄。故長於風。樂樂所以

● 大道昌明の世 ● 大旨に本づくことあるべし ● 孔子の仕官の邪魔を爲す ● 魯の隱公元年より、哀公十四年に至るまでの間 ● 法則となす ● 王者の事業を通達せしのみ ● 言語上の議論を記載せんと欲したりしも ● 當時の大臣の行事の上に就きて是非を明かにすることの ● 夏、殷、周三代の聖王の道 ● 紀綱を辨別し

易は天地陰陽四時五行を著す、故に變に長ず。禮は人倫を經紀す、故に行に長ず。書は先王の事を記す、故に政に長ず。詩は山川、谿谷、禽獸、草木、牝牡、雌雄を記す、故に風に長ず。樂は以て立つ所を樂む、故に和に長ず。春秋は是非を辯ず、故に人を治むるに長ず。是故に禮以て人を節し、樂以て和を發し、書以て事を道ひ、詩以て意を達し、易以て化を道ひ、春秋以て義を道ふ。亂世を撥めて之を正に反すは、春秋より近きは莫し。春秋は文數萬を成し、其指數千にして、萬物の散聚、皆春秋に在り。春秋の中、君を弑するもの三十六、國を亡すもの五十

一、諸侯奔走して、其社稷を保つことを得ざる者、勝けて數ふ可からず。其所以を察するに、皆其本を失ふのみ。故に易に曰く、之を毫釐に失すれば、差ふに千里を以てすと。故に曰く、臣、君を弑し、子、父を弑するは、一旦一夕の故に非ざるなり、其漸久し。

● 木、火、土、金、水 ● 變化の次第に於て長所あり ● をさめしむるす ● 行儀 ● 誤り、たとへかこつてて曉らしむること ● 身の以て立つ所を樂む ● とり治めて、之を正道に反らしむるは ● 手近き ● 孔子の春秋は一萬八千字あり、數萬といふことを得ず、故に司馬遷の此辭は、董生の言を述べしものなり董生は公羊の學を修む、故に春秋の義を傳ふる公羊傳に就きていへるものならん、一説數萬とよみて、字數一萬の多きに及ぶ意と ● 之を一毫一釐の僅かなる處に於て過つ時は、其結果は千里の大差を生ずるに至る ● 弑逆を行ふに至るまでには、其出現を見るまでの道程は久しく長きものなり

立。故長於和。春秋辯是非。故長於治人。是故禮以節人。樂以發和。書以道事。詩以達意。易以道化。春秋以道義。撥亂世。反之正。莫近於春秋。春秋文成數萬。其指數千。萬物之散聚。皆在春秋。春秋之中。弑君三十六。亡國五十二。諸侯奔走不得保其社稷者。不可勝數。察其所以。皆失其本已。故易曰。失之毫釐。差以千里。故曰。臣弑君。子弑父。非一旦一夕之故也。其漸久矣。

故有國者。不

故に國を有つ者は以て春秋を知らざる可からず。前に讒有れども見ず、後に賊有

可_レ以_レ不知_レ春秋。前有_レ譏而弗_レ見。後有_レ賊而不知_レ。爲_レ人臣者。不可_レ以不知_レ春秋。守_レ經事_レ而不知_レ其宜。遭_レ變事_レ而不知_レ其權。爲_レ人君父_レ而不知_レ於_レ春秋之義_レ者。必蒙_レ首惡_レ之名_レ。爲_レ人臣子_レ而不知_レ於_レ春秋之義_レ者。必陷_レ篡弑_レ之誅_レ。死罪之名_レ。其實皆以_レ爲_レ善_レ爲_レ之。不知_レ其義_レ。被_レ

れども知らず。人臣たる者は以て春秋を知らざる可からず。經事を守りて其宜しきを知らず、變事に遭ひて其權を知らず。人の君父と爲りて春秋の義に通ぜざる者は、必ず首惡の名を蒙らん。人の臣子と爲りて春秋の義に通ぜざる者は、必ず篡弑の誅、死罪の名に陥らん。其實は皆善と以爲ひて之を爲すも、其義を知らざれば、之れが空言を被りて敢へて辭せず。夫れ禮義の旨に通ぜざれば、君君たらず、臣臣たらず、父父たらず、子子たらざるに至る。君君たらざれば則ち犯され、臣臣たらざれば則ち誅せられ、父父たらざれば則ち道無く、子子たらざれば則ち孝ならず。此四行は天下の大過なり。天下の大過を以て之に予ふるを、則ち受けて敢へて辭せず。故に春秋は禮義の大宗なり。夫れ禮は未然の前に禁じ、法は已然の後に施す。法の用を爲す所の者は見易くして、而して禮の禁するを爲す所の者は知り難しと。

- 眼前に
- 直ぐ背後に
- 臨機應變の處置を施す方法を知らず
- 惡の實なくして、惡名を受け誹謗せ

之空言_レ而不知_レ禮義_レ。夫不_レ通_レ於_レ君_レ不_レ君_レ。臣不_レ臣_レ。父不_レ父_レ。子不_レ子_レ。君不_レ君_レ。則_レ犯_レ。臣不_レ臣_レ。則_レ誅_レ。父不_レ父_レ。則_レ無_レ道_レ。子不_レ子_レ。則_レ不_レ孝_レ。此四行者_レ。天下之大過也。以_レ天下之大過_レ予_レ之_レ。則_レ受_レ而弗_レ敢_レ辭_レ。故_レ春秋者_レ禮義之大宗也。夫禮禁_レ未然_レ之前_レ。法施_レ已然_レ之後_レ。法之所爲_レ用者_レ易_レ見_レ。而禮之所爲_レ禁者_レ難_レ知_レ。

- ちれて、其罪名を免るゝこと能はず
- 凌ぎ犯され
- 大なる過なり
- 君臣父子に與ふるを
- 大本
- 禁じて制を立て
- 事の已に起れる後に適用するものなり

壺遂曰_レ。孔子之時_レ。上無_レ明君_レ。下不得_レ任_レ用_レ。故作_レ春秋_レ。垂_レ空文_レ。以_レ斷_レ禮義_レ。當_レ一王之法_レ。今_レ天子。上遇_レ明天子_レ。下得_レ守_レ職_レ。萬事既具_レ。咸各序_レ其宜_レ。夫子所_レ論_レ。欲_レ以_レ何_レ明_レ。太史公曰_レ。

壺遂曰く、孔子の時たる、上に明君無く、下に任用を得ず。故に春秋を作り、空文を垂れて、以て禮義を斷じ、一王の法を當つ。今天子は上、明天子に遭ひ、下、職を守ることを得、萬事既に具り、咸各其宜しきを序づ。夫子の論する所は、以て何をか明かにせんと欲すると。太史公曰く、唯唯、否否然らず。余之を先人に聞けり、曰く、伏羲は至りて純厚にして、易の八卦を作り、堯舜の盛なる、尙書之を載す、禮樂作る。湯武の隆なる、詩人之を歌ふ。春秋は善を采り惡を貶し、三代の徳を推し、周室を褒す。獨り刺譏するのみに非ざるなり。漢興りて以來、明天子に至り、符瑞を獲、封禪を建て、正朔を改め、服色を易へ、命を穆清

唯唯。否否。不
然。余聞之先
人。曰。伏羲至
純厚。作易八
卦。堯舜之盛。
尚書載之。禮
樂作焉。湯武
之隆。詩人歌
之。春秋采善
貶惡。推三代
之德。褒周室。
非獨刺譏而
已也。漢興以
來。至明天子。
獲符瑞。建封
禪。改正朔。易
服色。受命穆
清。澤流罔極。
海外殊俗。重
譯款塞。請來
獻見者。不可
勝道。臣下百
官。力誦聖德。
猶不能宣盡
其意。且士賢
能而不用。

に受け、澤、罔極に流る。海外の殊俗、譯を重ね塞を款き、來りて獻見すること
を請ふ者、勝けて道ふ可からず。臣下百官力めて聖德を誦するも、猶ほ其意を宣
盡すること能はざるがごとし。且つ士、賢能にして用ひられざるは、國を有つ者
の恥なり。主上明聖にして徳布聞せざるは、有司の過なり。且つ余嘗て其官を掌
りて、明聖の成徳を廢てて載せず、功臣世家賢大夫の業を滅して述べず、先人の
言ふ所を墮すは、罪焉より大なるは莫からん。余は謂はゆる故事を述べて其世傳
を整齊するなり、謂はゆる作るには非ざるなり。而るを君之を春秋に比するは謬
れりと。

- 時代 ● 賢才の者ありと雖も、登庸せられず ● 實地に用ひぬ文章 ● 堯舜の盛なる事業の状況を記載せり ● 湯武の隆なる事跡を詩に作り歌ふ ● 大徳に順ひて服色を易へて赤色を尚び ● 大命を穆清なる天帝に受け ● 隔り無き後代に流傳す ● 通譯を重ね、國境の塞門を訪づれ ● 宣へ盡す ● 布き聞えざるは ● 代々の傳記を整頓するに在り ● 創め作るにはあちざるなり ● 比較して論ずるは謬見なり

有國者之恥。主上明聖而徳不布聞。有司之過也。且余嘗掌其官。廢明聖盛徳不載。滅功臣世家賢大夫之業不述。墮先人所言。罪莫大焉。余所謂述故事。整齊其世傳。非所謂作一也。而君比之於春秋。謬矣。

於是論次其
文。七年而太
史公遭李陵
之禍。幽於縲
繼。乃喟然而
歎曰。是余之
罪也。夫。是余
之罪也。夫。身
毀不用矣。退
而深惟曰。夫
詩書隱約者。
欲遂其志之
思也。昔西伯
拘。姜里。演。周
易。孔子。厄。陳
蔡。作春秋。風
原放逐。著離

是に於てか其文を論次す。七年にして太史公、李陵の禍に遭ひ、縲繼に幽せらる。
乃ち喟然として歎じて曰く、是れ余の罪なる夫。是れ余の罪なる夫。身毀られて
用ひられずと。退きて深く惟ひて曰く、夫れ詩書の隱約なるは、其志の思を遂け
んと欲すれば也。昔は西伯姜里に拘はれ、周易を演べ、孔子陳蔡に厄して春秋を
作り、屈原放逐せられて、離騷を著し、左丘明を失ひて、厥れ國語有り、孫子
脚を膾せられて、兵法を論じ、不韋蜀に遷されて、世、呂覽を傳へ、韓非秦に
囚はれ、說難孤憤あり。詩三百篇、大抵聖賢發憤の爲作する所なり。此れ人皆意
鬱結する所有りて、其道を通ずることを得ざるなり。故に往事を述べて、來者を
思ふなりと。是に於てか卒に陶唐以來を述べ、麟止に至る。黃帝より始む。

- 論評次序す ● 匈奴に降れる李陵を救ひたる爲に囚獄に下され、且つ官刑に處せられたるをいふ ● 獄中

騶左丘失明。厥有國語。孫子臚脚而論。兵法不章。遷劉世傳。呂覽韓鬱結。不得通其

に繋がる ④ 其義隱微にして、言詞簡約なるは ⑤ 面目となりて ⑥ 書石 ⑦ 脚のひかみかみを斷たる、刑に處せられて ⑧ 憤を設して ⑨ 過去の事蹟を述べ序で、 ⑩ 陶唐氏帝堯 ⑪ 止は趾、武帝雍に至りて白麟を獲、而して金を鑄て麟正の形を作る、故にいふ ⑫ 黃帝を述べて、本紀の首となす

維昔黃帝。法天則地。四聖遵序。各成法度。唐堯遜位。虞舜不台。厥美帝功。萬世載之。作五帝本紀第一。維禹之功。九州攸同。光唐虞際。德流苗裔。夏桀淫驕。乃放鳴條。作夏

維れ昔黃帝、天に法り地に則り、四聖序に遵ひて、各々法度を成す。唐堯位を遜りて、虞舜台ばす。厥の帝功を美むる、萬世之を載す。五帝本紀第一を作る。維れ禹の功、九州の同じき攸なり。唐虞の際を光し、德苗裔に流る。夏桀淫驕にして、乃ち鳴條に放たる。夏本紀第二を作る。維れ契、商を作し、爰に成湯に及ぶ。太甲桐に居り、德阿衡に盛なり。武丁、説を得て、乃ち高宗と稱す。帝辛湛溺して、諸侯享せず。殷本紀第三を作る。維れ棄稷と作り、德西伯に盛なり。武王牧野にして實に天下を撫す。幽厲昏亂にして、既に鄴鎬を喪ひ、陵遲して根に至り、洛邑祀せず。周本紀第四を知る。維れ秦の先、伯翳、禹を佐け、

本紀第二。維契作商。爰及成湯。太甲居桐。德盛阿衡。武丁得説。乃稱高宗。帝辛湛溺。諸侯不享。作殷本紀第三。維棄作稷。德盛西伯。武王牧野。實撫天下。幽厲昏亂。既喪鄴鎬。陵遲至赧。洛邑不祀。作周本紀第四。維秦之先。伯翳佐禹。穆公思義。悼豪之旅。以人為殉。詩歌黃鳥。昭襄業帝。作秦本紀第五。始皇既立。并兼六國。銷鋒鑄鐻。維偃干革。尊號稱帝。矜武任力。二世受運。子嬰降虜。作始皇本紀第六。秦失其道。豪桀並擾。項梁業之。子羽接之。殺慶救趙。諸侯立之。誅嬰背懷。天下非之。作項

穆公義を思ひて、豪の旅を悼み、人を以て殉と爲し、詩黃鳥を歌ふ。昭襄帝を業とす。秦本紀第五を作る。始皇既に立ちて、六國を并兼し、鋒を銷し鐻を鑄る。維に干革を偃せ、號を尊びて帝と稱し、武に矜り力に任す。二世運を受け、子嬰降虜たり。始皇本紀第六を作る。秦、其道を失ひて、豪傑並びに擾れ、項梁之を業として、子羽之に接ぎ、慶を殺し趙を救ひ、諸侯之を立つ。嬰を誅し懷に背き、天下之を非とす。項羽本紀第七を作る。

① 顛頊、帝堯、唐堯、虞舜の四聖は、即位の順序に違ひて ② 禹の治水の功 ③ 同じく其恩恵を受く ④ 子孫 ⑤ 商の世を作興し ⑥ 伊尹を阿衡とせしによりて盛なり ⑦ 二十二代 ⑧ 傅説 ⑨ 三十代 ⑩ 飲酒に耽りて ⑪ 后稷即ち農官の長 ⑫ 幽土は十二代、厲土は十代 ⑬ 次第に衰頹して ⑭ 啟王は三十七代 ⑮ 秦は崤にて崤山、穆公は義を思ひて崤山に於て全滅したる我軍を悼み ⑯ 詩經秦風に在り ⑰ 兼ね并せ ⑱ 兵器を鑄解して大鐘を鑄たり ⑲ 梟 ⑳ 甲冑類を藏め ㉑ 二世皇帝 ㉒ 創業して

羽本紀第七

子羽暴虐。漢行功德。憤發。蜀漢。還定。三秦。誅籍業。帝。天下惟寧。改。制易俗。作。高祖本紀第八。惠之早賈。諸呂不台。崇。彊。祿。諸侯謀。之。殺。隱。幽。女。大臣洞疑。遂及宗禍。作。呂太后本紀第九。漢既初興。繼嗣不明。迎王踐祚。天下歸心。獨。除。肉

子羽暴虐にして、漢功德を行ひ、蜀漢に憤發して、還りて三秦を定め、籍を誅し帝を業として、天下惟れ寧く、制を改め俗を易ふ。高祖本紀第八を作る○惠の早く賈するや、諸呂台はれず。祿産を崇彊する諸侯之を謀り、隠を殺し友を幽し、大臣洞疑し、遂に宗禍に及ぶ。呂太后本紀第九を作る○漢既に初めて興りて、繼嗣明かならず、王を迎へ祚を踐ましめ、天下心を歸す。肉刑を獨除し、關梁を開通し、恩を廣め施を博めて、厥に大宗と稱す。孝文本紀第十を作る○諸侯驕恣にして、吳首として亂を爲し、京師誅を行ひ、七國率に伏す。天下翕然として、大に安く殷に富む。孝景本紀第十一を作る○漢興りて五世、隆は建元に在り。外は夷狄を攘ひ、内は法度を修め、封禪を建て、正朔を改め、服色を易ふ。今上本紀第十二を作る。

- 項籍 ● 屠廬するや ● 呂氏、呂産を崇め尊ぶ所の諸侯 ● 趙の隱王如意 ● 趙の幽王友 ● 惑ひ

疑ひ ● 呂氏の宗族滅亡の禍 ● 刑、刑、宮の三身體刑を廢し ● 和合して

刑。開。通。關。梁。廣。恩。博。施。厥。稱。太。宗。作。孝。文。本。紀。第。十。諸。侯。驕。恣。吳。首。爲。亂。京。師。行。誅。七。國。伏。辜。天。下。翕。然。大。安。殷。富。作。孝。景。本。紀。第。十。一。漢。興。五。世。隆。在。建。元。外。攘。夷。狄。內。修。法。度。建。封。禪。改。正。朔。易。服。色。作。今。上。本。紀。第。十。二。

維三代尙矣。年紀不可考。益取之譜牒。舊聞本于茲。於是略推作三代世表第一。一。幽厲之後。周室衰微。諸侯專政。春秋有所不紀。而譜牒經略。五霸更盛衰。欲睹周世相先

維れ三代尙し。年紀考ふ可からず。蓋し之を譜牒に取る。舊聞茲に本づく。是に於て略推して三代世表第一を作る○幽厲の後、周室衰微し、諸侯政を專にし、春秋紀せざる所有り。而れども譜牒の經略に、五霸更々盛衰す。周の世の相先後するの意を睹んと欲し、十二諸侯年表第二を作る○春秋の後、陪臣政を乘りて、彊國相王たり。以て秦に至り、卒に諸夏を并せ、封地を滅し、其號を擅にす。六國年表第三を作る○秦既に暴虐にして、楚人難を發し、項氏遂に亂して、漢乃ち義を扶けて征伐す。八年の間、天下三擅し、事繁く變衆し。故に詳かに秦楚の際の月表第四を著す○漢興りて已來、太初に至るまで百年、諸侯廢立分削

後之意。作二十諸侯年表。第二。春秋之後。陪臣秉政。疆國相王。以至子秦。卒并諸夏。滅二封地。擅其號。作六國年表。第三。秦既暴虐。楚人發難。項氏遂亂。漢乃扶義征伐。八年之間。天下三擅。事繁變衆。故詳著秦楚之際。月表第四。漢興已來。至于太初二百年。諸侯廢立分削。譜紀不明。有司靡踵疆弱之原。云以世作漢興已來諸侯年表第五。

● 夏殷周三代の事迹は、其時代久遠なり ● 系譜の書 ● 經略の迹に ● 發見せんと欲し ● 中國の諸侯 ● 三たび禪り ● 系譜の記録不明なり ● 以世は徐廣の説に従ひ已也として訓ず

維高祖元功。輔臣股肱。剖符而爵。澤流苗裔。忘其昭穆。或殺身隕國。作高祖功臣侯者年表第六。惠景之間。惟れ高祖の元功、輔臣股肱、符を剖きて爵せられ、澤苗裔に流る。其昭穆を忘れ、或ひは身を殺し國を殞す。高祖の功臣侯者年表第六を作る。○惠景の間、惟れ功臣を申べ、宗屬爵邑あり。惠景間の侯者年表第七を作る。○北のかた疆胡を討じ、南のかた勁越を誅し、夷蠻を征伐して、武功爰に列す。建元以來の侯者年表第八を作る。○諸侯既に疆く、七國從を爲す。子弟衆多にして、爵封邑無く、恩を推し義

を行ふ。其勢銷弱にして、德京師に歸す。王子侯者年表第九を作る。○國に賢相良將有るは、民の師表なり。維れ漢興りて以來の將相名臣の年表を見し、賢者は其治を記し、不賢者は其事を彰す。漢興以來の將相名臣年表第十を作る。

● 大功績 ● 位牌の順序 ● 功臣の侯たりし者 ● 惠帝景帝 ● 強勇なる匈奴 ● 吳楚七國合從して反を謀る ● 其宗家より恩を推し廣め義を行ひて邑を分ちて分封す ● 威德天子に歸す ● 手本なり ● 治績を記載し ● 事柄を彰者ならしむ

問。維申功臣。宗屬爵邑。作惠景間侯者年表第七。北討疆胡。南誅勁越。征伐夷蠻。武功爰列。作建元以來侯者年表第八。諸侯既疆。七國爲從。子弟衆多。無爵封邑。推恩行義。其勢銷弱。德歸京師。作王子侯者年表第九。國有賢相良將。民之師表也。維見漢興以來。將相名臣年表。賢者記其治。不賢者彰其事。作漢興以來將相名臣年表第十一。

維三代之禮。所損益各殊。務然要以下近。情性通中王道。故禮因人質。爲之節文。略維れ三代之禮、損益する所各々務を殊にす。然れども要するに情性に近く王道に通ずるを以てす。故に禮は人の質に因りて之れが節文を爲し、略古今の變に協ふ。禮書第一を作る。○樂は風を移し俗を易ふる所以なり。雅頌の聲興りてより、則ち己に鄭衛の音を好む。鄭衛の音、從りて來る所久し。人情の感ずる所、遠俗

協古今之變。樂者所以移風易俗也。自雅頌聲興。則已好鄭衛之音。鄭衛之音。所從來久矣。人情之所感。遠俗則懷。比樂書以述來古。作樂書第二。非兵不彊。帝湯武以興。樂紂二世以崩。可不慎歟。司馬法所從來。尚矣。太公孫吳王子。能

則ち懐く。樂書を比して以て來古を述ぶ。樂書第二を作る。兵に非らずんば強からず、徳に非ずんば昌ならず。黃帝湯武は以て興り、桀紂二世は以て崩る。慎まざる可けん歟。司馬法の從りて來る所尚し。太公、孫吳、王子、能く紹きて之を明かにし、近世に切にして、人の變を極む。律書第三を作る。律は陰に居りて陽を治め、歴は陽に居て陰を治む。律歴更に相治めて、間、翽忽を容れず。五家の文佛異たり。維れ太初の元に論ぜり。歴書第四を作る。星氣の書多く禮祥を雜ふ、不經なり。其文を推し、其應を考ふるに殊ならず。比集して其行事を論じ、軌度に驗するに次を以てす。天官書第五を作る。命を受けて王たり。封禪の符用ふること罕なり。用ふれば則ち萬靈禮祀せざる罔し。諸神名山大川の禮を追本して、封禪書第六を作る。維れ禹川を浚ふ。九州の寧んずる故、爰に宣防に及び、瀆を決し溝を通ず。河渠書第七を作る。維れ幣の行はるゝ、以て農商を通ず。其極たるや則ち玩巧、并兼茲殖え、機利を争ひ、本を去りて末に趨る。平準書

を作り、以て事變を観る、第八なり。

- 減損増益する所有るは、各々務むる所の異なればなり
- 風俗を移し易ふものなり
- 起源する處は久しき以前よりのことなり
- 比して序でて以て古來の音樂の興衰を述ぶ
- 司馬の兵法の由りて來る處久し
- 其間、一秒一忽の至極微少の隙もなし
- 黃帝、顓頊、夏、殷、周五家の歷文は相展りて同じからず
- 太初元年
- 星辰、氣象の書
- 祟り吉祥の事を雜ふ
- 不稽なり
- 比集めて
- 星辰運行の路を影するに次第を以てす
- 天命
- 天下の萬靈盡く祀るに至るべし
- 禮を追ひ本づきて
- 殖えせるものを宣べ通じ、殖えせるものには堤防を築きて防ぎ
- 貨幣流通して
- 投機的の利益を争ひ
- 農業
- 商業

紹而明之。切近世極人變。作律書第三。律居陰而治陽。歴居陽而治陰。歴更相治。間不容翽忽。五家之文佛異。維太初之元論。作歴書第四。星氣之書。多雜禮祥。不經。推其文。考其應。不殊。比集論其行事。驗於軌度。以次作天官書第五。受命而王。封禪之符。罕用。用則萬靈罔不禮祀。追本諸神名山大川。禮作封禪書第六。維禹浚川。九州攸寧。爰及宣防。決瀆通溝。作河渠書第七。維幣之行。以通農商。其極則玩巧。并兼茲殖。争於機利。去本趨末。作平準書。以觀事變。第八。

太伯、歴を避けて、江蠻に是れ適く。文武の興る故、古公王跡あり。闔廬僚を弒して、荊楚を賓服せしめ、夫差、齊に克ちて、子胥、鴟夷たり。嚭を信じ越を親み、吳國既に滅ぶ。伯の讓を嘉し、吳世家第一を作る。申呂肖られ、尙父側微

差克齊子胥
越吳國既滅
嘉伯之讓作
吳世家第一
申呂肖矣尙
父側微卒歸
西伯文武是
師功冠羣公
繆權于幽番
番黃髮爰饗
營丘不背柯
盟桓公以昌
九合諸侯霸
功顯彰田闢
爭寵姜姓解
亡嘉父之謀
作齊太公世
家第二依之
違之周公綏

なり。卒に西伯に歸し、文武是れ師とす。功、羣公に冠し、幽に繆權す。番番たる黃髮、爰に營丘に饗し、柯の盟に背かず。桓公以て昌に、諸侯を九合し、霸功顯彰し、田闢寵を争ひて、姜姓解じす。父の謀を嘉し、齊の太公世家第二を作る。○之に依り之に違ふ。周公之を綏んじ、文徳を憤發して、天下之に和す。成王を輔翼して、諸侯周を宗とす。隱桓の際、是れ獨り何ぞ哉。三桓疆を争ひ、魯乃ち昌えず。且の金縢を嘉す。周公世家第三を作る。○武王、紂に克ち、天下未だ協せずして崩す。成王既に幼にして、管蔡之を疑ひ、淮夷之に叛く。是に於て召公徳に率ひ、王室を安集して、以て東土を寧んず。燕易の禪、乃ち禍亂を成す。甘棠の詩を嘉し、燕世家第四を作る。○管蔡、武庚を相けて、將に舊商を寧んぜんとす。且の位を攝するに及びて、二叔饗せず。鮮を殺し度を放ち、周公盟を爲す。太任に十子あり。周以て宗強し。仲の過を悔ゆるを嘉し、管蔡世家第五を作る。

之。慎發文徳。
天下和之。輔
翼成王。諸侯
宗周。隱桓之
際。是獨何哉。
三桓争疆。魯
乃不昌。嘉且
金縢。作周公
世家第三。武
王克紂。天下
未協而崩。成
王既幼。管
蔡疑之。淮庚
叛之。於是召
公率徳。安集
王室。以寧東
土。燕易之禪。
乃成禍亂。嘉
甘棠之詩。一
作。燕世家第
四。管蔡相武
庚。將寧舊商。
及且攝政。二
叔不饗。殺鮮。
放度。周公爲
盟。太任十
子。周以宗強。
嘉仲悔過。作
管蔡世家第五。

● 弟の季歴に位を譲らんとして ● 服従せしめ ● 幽夷に入れられて江に流さる ● 二國の名、共に太公
● 諸の祖先の封せられし地 ● 太公望 ● 勉めて權謀をなす ● 眞白なる ● 五解す ● 尙父 ● 人
● 心動搖して、或ひは服し或ひは離る ● 隱公、桓公 ● 魯の大夫たる仲孫、叔孫、季孫 ● 詩經に出づ
● もとの數

王後不絶舜
禹是說惟徳
休明苗裔蒙
烈百世享祀
愛周陳杞楚
實滅之齊田
既起舜何人
哉作陳杞世
家第六牧殷
餘民叔封始

王の後絶えず。舜禹是れ説ぶ。維れ徳休明なり。苗裔烈を蒙り、百世享祀す。爰に周陳の杞、楚實に之を滅す。齊田既にして起る。舜何人ぞ哉。陳杞世家第六を作る。○殷の餘民を收めて、叔封始めて邑す。申ぬるに商の亂を以てし、酒材是れ告ぐ。朔の生るゝに及びて、衛傾きて寧からず。南子、刺職を惡みて、子父名を易ふ。周徳卑微にして、戰國既に強し。衛小弱を以て、角獨り後に亡ぶ。彼の康誥を嘉し、衛世家第七を作る。○嗟箕子乎。嗟箕子乎。正言して用ひられず。乃ち

邑申以商亂。酒材是告。及朔之生。衛不寧。南子惡。制職。子父易。名。周德卑微。戰國既疆。衛以二小弱。角獨後亡。嘉二彼康。誥。作二衛世家第七。嗟箕子乎。正言不用。乃反爲奴。武庚既死。周封二微子。襄公傷二於泓。君子孰稱。景公謙德。葵惑退。行。別成暴虐。宋乃滅。

反りて奴と爲る。武庚既に死し、周、微子を封す。襄公、泓に傷らる。君子孰をか稱せん。景公謙德にして、葵惑行を退き、別成暴虐にして、宋乃ち滅亡す。微子の太師を問ふを嘉し、宋世家第八を作る。○武王既に崩じ、叔虞唐に邑す。君子名を譏り、卒に武公に滅さる。驪姫の愛せらるゝ、亂るゝ者五世、重耳意を得ず、乃ち能く霜を爲す。六卿權を專にし、晉國以て耗す。文公珪嚳を錫ることを嘉し、晉世家第九を作る。○重黎之を業とし、吳回之を接ぐ。殷の季世に、粥子より之を牒す。周、熊繹を用ひ、熊渠是れ續ぐ。莊王之賢なる、乃ち復た陳に國す。既にして鄭伯を赦し、師を華元に班す。懷王客死して、蘭、屈原を咎む。諛を好み讒を信じ、楚、秦に并せらる。莊王之義を嘉し、楚世家第十を作る。

● 古代聖王の後 ● 安く明らかなり ● 餘烈 ● 祭祀を享く ● 舜の後の陳國、禹の後の杞國 ● 河本毛本に従ひて收に改む ● 皆尚書篇名、酒誥、梓材を作り酒色の害を告げて教訓とす ● 崩は太子の身に於て出奔し、其子、軋を立て、君と爲す。これ孫が祖父の後を嗣ぎたる譯なれば、子父名を易ふといふ ● 國小にして兵弱きを以て ● 直言を以て諫めて ● 襄公のこの行事を稱せしめて他に何の稱することある ●

亡。嘉微子問。太師。作宋世家第八。武王既崩。叔虞。邑唐。君子譏名。卒滅武公。驪姫之愛。亂者五世。重耳不得意。乃能成霸。六卿專權。晉國以耗。嘉文公錫珪嚳。作晉世家第九。重黎業之。吳回接之。殷之季世。粥子牒之。周用熊繹。熊渠是續。莊王之賢。乃復國陳。既赦鄭伯。班師華元。懷王客死。蘭咎風原。好諛信讒。楚并於秦。嘉莊王之義。作楚世家第十一。

● 受惑星即火星は動して宋を退き ● 太子重耳一旦意を得ずして出奔し ● 襄公 ● 火正の官に居る ● 謹謙即ち系國 ●

少康之子。實賓南海。文身。斷髮。龍鱗。與處。既守封禺。奉禹之祀。句踐困彼。乃用種蠶。嘉下句踐夷蠻。能修其德。滅彊吳。以尊周室。作越王句踐世家。

少康の子、實に南海に賓せられ、身に文し髪を断ちて、龍鱗と與に處る。既にして封禺を守り、禹の祀を奉ず。句踐彼に困み、乃ち種蠶を用ふ。句踐の夷蠻にして、能く其徳を修め、彊吳を滅して、以て周室を尊びしを嘉し、越王句踐世家第十一を作る。○桓公の東するや、太史を是れ庸ふ。周の禾を侵すに及びて、王人是れ議す。祭仲要盟し、鄭久しく昌えず。子産の仁、世を紹きて賢と稱す。三晉侵伐して、鄭、韓に納る。厲公の惠王を納れしを嘉し、鄭世家第十二を作る。○維れ驥驂耳、乃ち造父を章す。趙夙獻に事へて、衰厥の緒を續ぎ、文を佐け王を

第十一。桓公之東。太史是庸。及侵周禾。王人是議。祭仲要盟。鄭久不昌。子產之仁。紹世稱賢。三晉侵伐。鄭納於韓。嘉三屬公納惠王。作二鄭世家第十。二。維驥騏耳。乃章造父。趙夙事獻。其續二厥緒。佐文章。王卒爲晉輔。襄子困辱。乃禽智伯。主父生縛。餓死探爵。王遷辟淫。良將是斥。嘉鞅討周亂。作趙世家第十三。畢萬爵魏。卜人知之。及絳戮干。戎

尊び、卒に晉の輔と爲る。襄子困辱して、乃ち智伯を禽にす。主父生縛せられ、餓死せんとして爵を探る。王遷辟淫にして、良將是れ斥く。鞅の周の亂を討せるを嘉し、趙世家第十三を作る。○畢萬、魏に爵する、卜人之を知る。絳の干を戮するに及びて、戎翟之を和す。文侯義を慕ひ、子夏之に師たり。惠王自ら矜り、齊秦之を攻む。既にして信陵を疑ひ、諸侯之を罷め、卒に大梁を亡し、王假之に斲たり。武の晉文を佐けて霸道を申べたるを嘉し、魏世家第十四を作る。○韓厥の陰徳は、趙武の興る攸、絶を紹き廢を立て、晉人之を宗とす。昭侯顯列、申子之に庸ひらる。非を疑ひて信ぜず。秦人之を襲ふ。厥の晉を輔けて周の天子の賦を匡せるを嘉し、韓世家第十五を作る。

● 擯と道す、擯斥せられ ● 入盟し ● うみがめ、よるひがめ ● 洛水の東に居るに際し ● 周の地を侵し禾を取るに及びて ● 三室の人 ● 名馬 ● 周の穆公に名馬を獻じて遂に新城に封ぜらるゝに至りしをいふ ● 雀の子を取りて食ふ ● 既養の卒 ● 申不害

完子避難。適齊爲援。陰施五世。齊人歌之。成子得政。田和爲侯。王建動心。乃遷于共。嘉威宣能撥濁世。而獨宗周。作田敬仲完世家第十六。周室既衰。諸侯恣行。仲尼悼禮廢樂崩。追修經術。以達王道。匡亂世。反之正。見其文

完子難を避け、齊に適き援を爲し、陰かに五世に施し、齊人之を歌ふ。成子政を得て、田和侯たり。王建心を動し、乃ち共に遷さる。威宣の能く濁世を撥ひて、獨り周を宗とせしを嘉し、田敬、仲完世家第十六を作る。○周室既に衰へ、諸侯行を恣にす。仲尼禮廢れ樂崩るゝを悼み、經術を追修して、以て王道を達し、亂世を匡して、之を正に反し、其文辭に見し、天下の爲に儀法を制し、六藝の統紀を後世に垂る。孔子世家第十七を作る。○桀討其道を失ひて、而して湯武作り、周其道を失ひて、春秋作り、秦其政を失ひて、陳涉迹を發し、諸侯難を作す。風起雲蒸して、卒に秦の族を亡す。天下の端、涉より難を發す。陳涉世家第十八を作る。○成阜の臺、薄氏始めて基す。意を細して代に適き、厥れ諸實を崇ぶ。栗姫貴を偵みて、王氏乃ち遂げ、陳后太だ驕りて、卒に子夫を尊ぶ。夫の徳の斯く

辭。爲天下制儀法。垂六藝之統紀於後世。作孔子世家第十七。桀紂失其道。而湯武作。周失其道。而春秋作。秦失其政。而陳涉發迹。諸侯作難。風起雲蒸。卒亡秦族。天下之端。自涉發難。作陳涉世家第十八。成臯之臺。薄氏始基。譙意適代。厥崇諸賢。栗姬傾貴。王氏乃遂。陳后大驕。卒尊子夫。嘉夫德。若斯。作外戚世家第十九。漢既講謀。禽下信於陳。越荆剽輕。乃封弟交爲楚王。爰都彭城。以彊淮泗。爲漢宗蕃。戊溺於邪。禮復紹之。嘉游輔祖。作楚元王世家第二十。

の若きを嘉し、外戚世家第十九を作る。○漢既に誦り謀りて、信を陳に禽にす。越荆は剽輕なり。乃ち弟交を封じて、楚王と爲す。爰に彭城に都して、以て淮泗を彊くし、漢の宗藩と爲る。戊、邪に溺れて、禮復た之を紹ぐ。游の祖を輔けしを嘉し、楚の元王世家第二十を作る。

● 陳亮は陳の宣公の太子柳冠の難を避けて出奔し ● 後世より追修して ● 手本 ● 正統の紀文 ● 王道を失ひて ● 兵を起して事を首め ● 風の起る如く烈しく、雲の起るが如く隠して ● 陳涉の兵を構へたるより端を發す ● 河南宮の成臯臺 ● 齊皇后の一族尊貴せらる ● 王夫人皇后となる ● 氣強く輕薄なり

維祖師旅。劉賈是與。爲布所襲。喪其荆

維れ祖の師旅、劉賈是れ與す。布の襲ふ所と爲り、其荆吳を喪ふ。營陵、呂を激して、乃ち琅邪に王たり。午に怵はれ齊を信じて往きて歸らず、遂に西のかた

吳。營陵激呂。乃王琅邪。怵午信齊。往而不歸。遂西入關。遭立孝文。獲復王燕。天下未集。賈澤以族爲漢藩輔。作荆燕世家第二十一。天下已平。親屬既寡。悼惠先壯。實鎮東土。哀王擅興。發怒諸呂。劉鈞暴戾。京師弗許。厲之內淫。禍成主父。嘉悼惠王世齊悼惠王世

關に入り、孝文を立つるに遭ひて、復た燕に王たることを得たり。天下未だ集らず、賈澤族を以て漢の藩輔と爲る。荆燕世家第二十一を作る。○天下已に平ぎ、親屬既に寡し。悼惠先づ壯にして、實に東土を鎮む。哀王擅に興りて、怒を諸呂に發す。劉鈞暴戾にして、京師許さず。厲の内淫、禍、主父に成る。肥の股肱なるを嘉し、齊の悼惠王世家第二十二を作る。○楚人我を滎陽に圍む。相守ること三年なりき。蕭何山西を填撫し、計を推し兵を踵ぎ、糧食を給して絶たず、百姓をして漢を愛し楚の爲にすることを樂まざらしむ。蕭相國世家第二十三を作る。○信と與に魏を定め、趙を破り齊を抜き、遂に楚人を弱め、何に續ぎて相國となり、變ぜず革めず、黎庶の寧する攸、參が功に伐り能に矜らざるを嘉し、曹相國世家第二十四を作る。○籌を帷幄の中ら運し、勝つことを無形に制す。子房其事を計謀して、知名無く勇功無く、難を易に圖り、大を細に爲す。留侯世家第二十五を作る。

家第二十二。楚人圍我蒙陽。相守三年。蕭何填撫山

四。推計隨兵。給糧食不絕。使百姓愛漢不樂爲楚。作蕭田國世家第二十三。與信定魏。破趙拔齊。注弱楚人。續何相國。不變不革。黎庶攸寧。嘉參不伐。功矜能。作曹相國世家第二十四。運籌帷幄之中。制勝於無形。子房計謀其事。無知名。無勇功。圖難於易。爲大於細。作略侯世家第二十五。

- 蕭何の立て置きたる所を改革せず
- 曹參 事を未だに防ぐ
- 陸賈 難事を易きに計らひ
- 大將を細事にて始末をなす
- 蕭何と爲る
- 呂氏一族の者に向つて怒る
- 其姉姁主と爲す
- 曹何

六奇既用。諸侯賓從於漢。呂氏之事。平爲本謀。終安宗廟。定社稷。作陳丞相世家第二十六。諸呂爲從。謀弱京師。而勃反。經合於權。

六奇既に用ひて、謀侯漢に賓從す。呂氏の事、平本謀たり。終に宗廟を安んじ、社稷を定む。陳丞相世家第二十六を作る。○諸呂從を爲し、京師を弱むることを謀る。而して勃、經に反して權に合ふ。吳楚の兵、亞父、昌邑に駐め、以て齊趙を尾し、而して出し委するに梁を以てす。絳世家第二十七を作る。○七國の叛逆する、京師に蕃屏として、唯梁、扞を爲すのみ。愛を優み功に矜り、幾い禍を獲んとす。其能く吳楚を距きしを嘉し、梁の孝王世家第二十八を作る。○五宗既に王として、親屬協和し

吳楚之兵。亞夫駐於昌邑。以扞齊趙。而絳侯世家第二十七。七國叛逆。蕃屏京師。唯梁爲扞。愛矜功。幾獲于禍。嘉其能距吳楚。作梁孝王世家第二十八。五宗既王。親屬協和。諸侯大小爲藩。爰得其宜。僭擬之事。稍衰貶矣。作五宗世家第二十九。三子之王。文辭可觀。作三王世家第三十。

諸侯大小藩と爲り、爰に其宜しきを得たり。僭擬の外、稍々衰貶す。五宗世家第二十九を作る。○三子の王たる、文辭觀る可し。三王世家第三十を作る。

- 陳平の六奇計を用ひて
- 呂氏の一族合從して
- 敵に出して委す
- 景帝の子十三人ありて、其母五人あり
- 武帝の三子、即ち閔、且、晉

末世爭利。維彼奔義。讓國餓死。天下稱之。作伯夷列傳第一。晏子儉矣。夷吾則奢。齊桓以霸。景公以治。作

末世利を爭ふ。維彼れ義に奔る。國を讓りて餓死し、天下之を稱す。伯夷列傳第一を作る。○晏子は儉なり。夷吾は則ち奢る。齊桓以て霸たり。景公以て治る。管晏列傳第二を作る。○季耳は無爲にして自ら化し、清淨にして自ら正し。韓非は事情を揣り、勢理に循ふ。老子韓非列傳第三を作る。○古の王者よりして、司馬法有り、穰直能く之を申明す。司馬穰直列傳第四を作る。○信廉仁勇に非ざれば、

管晏列傳第
 二。李耳無爲
 自化。清淨自
 正。韓非揣事
 情。循勢理。作
 老子韓非列
 傳第三。自古
 王者。而有司
 馬法。穰苴能
 申明之。作司
 馬穰苴列傳
 第四。非信廉
 仁勇。不能傳
 兵論。劔。與道
 同符。內可。以
 治身。外可。以
 應變。君子比
 德焉。作孫子
 吳起列傳第
 五。維建遇讒。

兵を傳へ劔を論ずること能はず。道と符を同じくして、内は以て身を治む可く、外は以て變に應ず可し。君子徳を比す。孫文吳起列傳第五を作る○維建、讒に遇ひ、爰に子奢に及び、尙は既に父を匡はんとし、伍員は吳に奔る。伍子胥列傳第六を作る○孔子文を述べ、弟子業を興し、咸師傳と爲り、仁を崇び義を厲す。仲尼の弟子列傳第七を作る○鞅、衛を去り秦に適き、能く其術を明かにし、孝公を強く霸として、後世其法に遵ふ。商君列傳第八を作る○天下、衛を患へて、秦は賢くこと母し。而して蘇子能く諸侯を存し、從を約して以て貪彊を抑ふ。蘇秦列傳第九を作る○六國既に從親す。而して張儀能く其説を明らかにして、復た諸侯を散解す。張儀列傳第十を作る。

- 伯夷 ● 老子 ● 事物の情態を措りて ● 時勢に逆はず、事理に順へり ● 司馬の兵法 ● 敷演して明瞭にす ● 兵法を傳へ、劔道を論議する ● 兵法は道徳と符合する處あり ● 楚の平王の太子建 ● 韓、魏、楚、燕、趙、齊の六國連横 ● 合從して親和す ● 連衡の説 ● 排秦同盟の諸侯

爰及子奢。尙既匡父。伍員奔吳。作伍子胥列傳第六。孔氏述文。弟子興業。咸爲師傳。崇仁厲義。作仲尼弟子列傳第七。鞅去衛適秦。能明其術。強弱孝公。後世遵其法。作商君列傳第八。天下患衛。秦毋賢。而蘇子能存諸侯。約從以抑貪彊。作蘇秦列傳第九。六國既從親。而張儀能明其説。復散諸侯。作張儀列傳第十。

秦所_三以東攘
 雄_二諸侯。樛里
 甘茂之策。作
 樛里甘茂列
 傳第十一。苞
 河山。圖大梁。
 使諸侯歛手
 而事秦者。魏
 冉之功。作穰
 侯列傳第十
 二。南拔鄆郢。
 北摧長平。遂
 圍邯鄲。武安
 爲率。破荊滅
 趙。王翦之計。

秦、東攘して諸侯に雄たる所以は、樛里、甘茂の策あればなり。樛里、甘茂列傳第十一を作る○河山を苞ね、大梁を圍み、諸侯をして手を斂めて秦に事へしめは魏冉の功なり。穰侯列傳第十二を作る○南、鄆郢を抜き、北、長平を摧き、遂に邯鄲を圍むは、武安率たり。荆を破り趙を滅すは、王翦の計なり。白起、王翦列傳第十三を作る○儒墨の遺文を獵し、禮義の統紀を明かにし、惠王の利端を絶ち、往世の興衰を列す。孟子、荀卿列傳第十四を作る○客を好み士を喜び、士、薛に歸す。齊の爲に楚魏を打ぐ。孟嘗君列傳第十五を作る○馮亭を争ふに權を以てし、楚に如きて以て邯鄲の圍を救ひ、其君をして復た諸侯と稱せしむ。平原君、虞卿列傳第十六を作る○能く富貴を以て貧賤に下り、賢にして能く不肖に詘

作白起王翦
列傳第十三
獵儒墨之遺
文。明禮義之
統紀。絕惠王
利端。列往世
興衰。作孟子
荀卿列傳第
十四。好客喜
士。歸于薛。
爲齊并楚魏。
作孟嘗君列
傳第十五。爭
馮亭以權。如楚
以救邯鄲之圍。
使其君復稱於諸侯。
作平原君虞卿列傳第十六。能以富
貴下貧賤。賢能誦於不肖。唯信陵君爲能行之。
作魏公子列傳第十七。以身徇君。遂脫彊
秦。使馳說之士。南鄉走楚者。黃歇之義。作春申君列傳第十八。能忍詞於魏齊。而信威於
彊秦。推賢讓位。二子有之。作范雎蔡澤列傳第十九。率行其謀。連五國兵。爲弱燕。報彊齊
之讎。雪其先君之恥。作樂毅列傳第二十。

○山東の地を一掃して ○ 黄河、華山 ○ 臣事せしめしは ○ 武安君白起の將帥たりし功なり ○ 涉獵
○ 利を好むの端緒 ○ 權略を以てし ○ 遊説の士 ○ 南向 ○ 春申君黄歇が義氣に由れり

能信意彊秦。
而屈體廉子。
用徇其君。俱
重於諸侯。作
廉頗藺相如
列傳第二十。
一。潛王既失
臨菑而奔莒。
唯田單用即
墨。破走騎劫。
遂存齊社稷。
作田單列傳
第二十二。能
設說。解患
於圍城。輕爵
祿。樂肆志。作
魯仲連鄒陽
列傳第二十
三。作辭以諷
諫。連類以爭

能く意を強秦に信べて、而して體を廉子に屈し、用て其君に徇ひ、俱に諸侯に重
ぜらる。廉頗、藺相如列傳第二十一を作る○潛王既に臨淄を失ひて莒に奔る。唯
田單、即墨を用て騎劫を破走し、遂に齊の社稷を存す。田單列傳第二十二を作る○
能く詭説を設けて、患を圍城に解き、爵祿を輕じて、志を肆にするを樂む。魯仲
連、鄒陽列傳第二十三を作る○辭を作りて以て諷諫し、類を連ねて以て義を爭ふ。
離騷之れ有り。屈原、賈生列傳第二十四を作る○子楚の親を結び、諸侯の士をして
斐然として争ひ入りて秦に事へしむ。呂不韋列傳第二十五を作る○曹子の匕首、魯
其田を獲、齊其信を明らかにす。豫讓義として一心を爲さず。刺客列傳第二十六を
作る○能く其畫を明かにし、時に因りて秦を推し、遂に意を海内に得るは、斯謀首
たり。李斯列傳第二十七を作る○秦の爲に地を開き衆を益し、北のかた匈奴を靡
し、河に據りて塞を爲し、山に因りて固めと爲し、榆中を建つ。蒙恬列傳第二十八
を作る○趙を填め常山に塞して、以て河内を廣め、楚の權を弱めて、漢土の信を天

義。離騷有之。
作風原賈生

列傳第二十

四。結子楚親。

使諸侯之士。

斐然爭入事。

秦。作呂不韋

列傳第二十五。

曹子七首。魯獲其田。齊明其信。豫讓義不爲二心。作刺客列傳第二十六。

能明其畫。因時推秦。遂得意於海內。斯爲謀首。作李斯列傳第二十七。爲秦開地益衆。北

靡。匈奴據河爲塞。因山爲固。建榆中。作蒙恬列傳第二十八。填趙塞常山。以廣河內。弱楚

權。明漢王之信於天下。作張耳陳餘列傳第二十九。收西河上黨之兵。從至彭城。越之侵

掠梁地。以苦項羽。作魏豹彭越列傳第三十。

傳第三十一。

下に明かにす。張耳、陳餘列傳第二十九を作る○西河、上黨の兵を收め、從ひて彭城に至り、越は梁の地を侵掠して、以て項羽を苦しむ。魏豹、彭越列傳第三十を作る。

● 蘭相如は秦に使用して趙に使を返し、又秦王をして趙王の爲に鐘を鼓せしめて趙を強秦に伸べて ● 蔣將 ● 常人に異なる説 ● 文辭を作りて ● 類例を列舉し ● 曹沫は七首を執りて齊の相公を劫す ● 計劃 ● 續りに同じ

淮南を以て楚に叛き漢に歸し、漢用て大司馬殷を得、卒に子羽を垓下に破る。黥布列傳第三十一を作る○楚人我を京索に迫る。而して信、魏趙を抜き、燕齊を定め、漢をして天下を三分して其二を有たしめ、以て項籍を滅す。淮陰侯列傳第三十二を作る○楚漢、鞏洛に相距ぎて、而して韓信爲に潁川を填め、盧縮、籍の糧餉

楚人迫我京索。而信拔魏趙。定燕齊。使漢三分天下。有其二。以滅項籍。作淮陰侯列傳第三十二。楚漢相距鞏洛。而韓信爲填潁川。盧縮絕籍糧餉。作韓王信盧縮列傳第三十三。諸侯畔項王。唯齊連子羽。城陽。漢得以間遂入彭越。作田儼列傳第三十四。攻城野

を絶つ。韓王信、盧縮列傳第三十三を作る○諸侯、項王に畔く。唯齊、子羽を城陽に連ぬ。漢、間を以て遂に彭城に入りを得たり。田儼列傳第三十四を作る○攻城野戰、功を獲て歸り報す。● 噲商力有り、獨り鞭策のみに非ず。又之と難を脱る。樊鄴列傳第三十五を作る○漢既に初めて定り、文理未だ明かならず。蒼、主計と爲りて、度量を整齊し、律歴を序す。張丞相列傳第三十六を作る○言を結び使を通じて諸侯を約懐す。諸侯咸く親みて、漢に歸して藩輔と爲る。酈生、陸賈列傳第三十七を作る○詳かに秦楚の事を知らんと欲すれば、維周縹常に高祖に從ひて、諸侯を平定す。傅靳、酈成列傳第三十八を作る○強族を徙し關中に都し、匈奴に和約し、朝廷の禮を明かにし、宗廟の儀法を次づ。劉敬、叔孫通列傳第三十九を作る○能く剛を摧き柔を作し、卒に列臣と爲る。● 樊公勢に劫されて死に倍かず。季布、樊布列傳第四十を作る。

● 兵糧運搬の道を杜絶す ● 項羽と兵を城陽に連ねて戦ふ ● 樊噲 酈商と二人の力による ● 鞭をあげ

千軍萬馬の間に馳驅したる功のみに非ず ⑤ 文治の事業 ⑥ 張敖辯舌を以て使者の趣意を通じ ⑦ 事能
大官となる

戰。獲功歸報。噲商有力焉。非獨鞭策。又與之脫難。作樊鄴列傳第三十五。漢既初定。文理未明。若爲主計。整齊度量。序律歷。作張丞相列傳第三十六。結言通使。約懷諸侯。諸侯咸親。歸以爲藩輔。作陸賈列傳第三十七。欲詳知秦楚之事。唯周繆常從高祖。平定諸侯。作靳黈成列傳第三十八。徙疆族。都關中。和約匈奴。明朝廷禮。次宗廟儀法。作劉敬叔孫通列傳第三十九。能摧剛作柔。卒爲列臣。樂公不劫於勢。而倍也死。作季布樂布列傳第四十。

敢犯顔色。以達主義。不顧其身。爲國家樹長畫。作袁盎鼂錯列傳第四十一。守法不失大理。言古賢人。增主之明。作張釋之馮唐列傳第四十二。敦厚慈孝。訥於言。敏於行。務在鞠躬。君子長者。作萬石張叔列傳第四十三。守節切直。義足以言廉。行足以厲賢。任重權。不可下。以非理。撓。作田叔列傳第四十四。爲方者宗。守數精明。後世修序。弗能易也。而倉公可謂近之矣。作扁鵲倉公列傳第七十。

敢へて顔色を犯して、以て主の義を達し、其身を顧みず、國家の爲に、長畫を樹つ。袁盎、鼂錯列傳第四十一を作る○法を守りて大理を失せず、古の賢人を言ひて主の明を増す。張釋之、馮唐列傳第四十二を作る○敦厚慈孝、言に訥にして、行に敏に、務鞠躬の君子長者たるに在り。萬石、張叔列傳第四十三を作る○守節切直、義は以て廉を言ふに足り、行は以て賢を厲すに足り、重權に任じて、非理を以て撓す可からず。田叔列傳第四十四を作る○扁鵲醫を言ふ。方者の宗たり。

傳第四十二。敦厚慈孝。訥於言。敏於行。務在鞠躬。君子長者。作萬石張叔列傳第四十三。守節切直。義足以言廉。行足以厲賢。任重權。不可下。以非理。撓。作田叔列傳第四十四。爲方者宗。守數精明。後世修序。弗能易也。而倉公可謂近之矣。作扁鵲倉公列傳第七十。

り。數を守ることに精明、後世修め序で、易ふること能はざるなり。而して倉公之に近しと謂ふ可し。扁鵲、倉公列傳第四十五を作る○維れ仲の省、厥れ漢吳に王たり。漢の初めて定まるに遭ひ、以て江淮の間を鎮撫す。吳王濞列傳第四十六を作る○吳楚亂を爲し、宗屬唯嬰のみ賢にして士を喜み、士之れに郷ふ。師を率る山東滎陽に抗す。魏其、武安列傳第四十七を作る○智は以て近世の變に應ずるに足り、寛は用て人を得るに足る。韓長孺列傳第四十八を作る○敵に當るに勇み、士卒を仁愛し、號令煩しからず、師徒之れに郷ふ。李將軍列傳第四十九を作る○三代より以東、匈奴常に中國の患害を爲す。彊弱の時を知り、備を設けて征討せんと欲す。匈奴列傳第五十を作る。

- 君主の執るべき義
- 長計を立つ
- 天子の明德を増したり
- 言語に訥辯にして
- 節操を守りて
- 深切直實なり
- 激厲するに足り
- 方術者の本家本元たり
- 醫術の學理を守ること
- 扁鵲の醫術の法を修めて次第し
- よしせらるゝこと
- 當世の事變に應じて事を處理するに十分なり
- 人心を得るに十分なり

傳第四十五。維仲之省。厥漢王。吳。遭漢初定。以鎮撫江淮之間。作吳王濞列傳第四十六。吳楚爲亂。宗屬唯嬰賢而喜。士。士。鄉之。率師抗山。東。榮陽。作魏其武安列傳第四十七。智足。以。應。近。世。之。變。寬。足。用。得。人。作韓長孺列傳第四十八。勇於當敵。仁愛士卒。號令不煩。師徒鄉之。作李將軍列傳第四十九。自三代以來。匈奴常爲中國患。害。欲。知。疆。弱。之。時。設。備。征。討。作匈奴列傳第五十。

直曲塞。廣河。南。破。祁。連。通。西。國。靡。北。胡。作衛將軍驃騎列傳第五十一。大臣宗。室。以。修。靡。相。高。唯。弘。用。節。衣。食。爲。百。吏。先。作。平。津。侯。列。傳。第。五。十。二。漢。既。平。中。國。而。他。能。集。

曲塞に直り、河南を廣め、祁連を破り、西國に通じ、北胡を靡かす。衛將軍驃騎列傳第五十一を作る○大臣宗室、侈靡を以て相高ぶる。唯弘用て衣食を節し、百吏の先たり。平津侯列傳第五十二を作る○漢既に中國を平ぐ。而して佗の能く楊越を集して、以て南藩を保ち、貢職を納る。南越列傳第五十三を作る○吳の叛逆する、甌人、濞を斬り、封禺を葆守して臣と爲る。東越列傳第五十四を作る○燕丹、遼間に散亂して、滿其亡民を收む。甌に海東に聚り、以て眞番を集し、塞を葆して外臣と爲る。朝鮮列傳第五十五を作る○唐蒙使として略して夜郎に通す。而して邛笮の君、請ひて内臣と爲り吏を受く。西南夷列傳第五十六を作る○子

楊越。以。保。南。藩。納。貢。職。作南越列傳第五十三。吳之。叛。逆。甌。人。斬。濞。葆。守。封。禺。爲。臣。作東越列傳第五十四。燕丹散亂遼間。滿收其亡民。厥聚海東。以集直番。葆塞爲外臣。作朝鮮列傳第五十五。唐蒙使略通夜郎。而邛笮之君。請爲內臣。受吏。作西南夷列傳第五十六。子虛之事。大人賦說。靡麗多誇。然其指風諫。歸於無爲。作司馬相如列傳第五十七。黥布叛逆。子長國之。以填江淮之南。安剽楚庶民。作淮南衡山列傳第五十八。奉法循理之吏。不伐功矜能。百姓無稱。亦無過行。作循吏列傳第五十九。正衣冠。立於朝廷。而羣臣莫敢言浮說。長孺矜焉。好薦人稱長者。莊有溉。作沒鄭列傳第六十。

虛の事、大人の賦の説、靡麗にして誇多し。然れども其指は風諫して、無爲に歸す。司馬相如列傳第五十七を作る○黥布叛逆し、子長之れに國して、以て江淮の南を填む。安は楚の庶民を剽す。淮南衡山列傳第五十八を作る○法を奉じ理に循ふの吏、功に伐り能に矜らず、百姓稱する無く、亦過行無し。循吏列傳第五十九を作る○衣冠を正しくし、朝廷に立てば、而ち羣臣敢へて浮説を言ふ莫し。長孺矜る。好みて人を薦めて長者と稱せらる。壯は溉有り。汲鄭列傳第六十を作る。

- 邊塞 ● 百官諸吏の先選者たり ● 東甌人 ● 保ち守りて漢の臣となる ● 内屬の臣と爲り、漢の官吏を請ひて其節を受く ● 本旨は ● 少子の長 ● 世の條理に循ふ ● 無根の言 ● 概、節概なり

自孔子卒。京師庠序。唯建元。元狩之間。文辭繁如也。作儒林列傳第六十一。民倍本多。巧。奸軌弄法。善人不能化。唯一切嚴削。爲能齊之。作酷吏列傳第六十二。漢既通使大夏。而西極遠。蠻引領內鄉。欲觀中國。作大宛列傳第六十三。救人於厄。振人不贖。仁

孔子の卒してより、京師庠序を崇ふこと莫し。唯建元元狩の間、文辭繁如たり。儒林列傳第六十一を作る○民、本に倍きて巧多く、軌を奸し法を弄し、善人化する事能はず、唯一切嚴削にして、能く之を齊ふことを爲す。酷吏列傳第六十二を作る○漢既に使を大夏に通じて、而して西のかた遠蠻を極め、領を引きて内郷し、中國を觀んと欲す。大宛列傳第六十三を作る○人を肩に救ひ、人の贖らざるを振ふは、仁者有る乎。信を既はず、言に倍かざるは、義者取ること有り。游侠列傳第六十四を作る○夫れ人君に事へ、能く主の耳目を説し、主の顔色を和けて、而して親近を獲るは、獨り色の愛のみに非ず、能も亦各々長ずる所有り。佞幸列傳第六十五を作る○世俗に流れず、勢利を争はず、上下凝滯する所無く、人之害とすること莫し。道の用を以てす。滑稽列傳第六十六を作る○齊楚、秦趙、日者を爲す。各々俗の用ふる所有り。循ひて其大旨を觀んと欲す。日者列傳第六十七を作る○三王龜を同じくせず、四夷各々トを異にす。然れども各々以て吉

者有乎。不既信。不倍言。義者有取焉。作游俠列傳第六十四。夫事人君。能說主耳目。和主顔色。而獲親近。非獨色愛。能亦各有所長。作佞幸列傳第六十五。不流世俗。不爭勢利。上下無所凝滯。人莫之害。以道之用。作滑稽列傳第六十六。齊楚秦趙爲日者。各有俗所用。欲循觀其大旨。作日者列傳第六十七。三王不同龜。四夷各異ト。然各以決吉凶。略闕其要。作龜策列傳第六十八。布衣匹夫之人。不害於政。不妨百姓。取與以時。而息財富。智者有采焉。作貨殖列傳第六十九。

凶を決す。略々其要を闡ふ。龜策列傳第六十八を作る○布衣匹夫の人、政を害せず、百姓を妨げず、取與時を以てして、而して財富を息す。智者采ること有り。貨殖列傳第六十九を作る。

- 學校の教
- 法軌を犯し又は弄びて
- 首を伸して來り歸し
- 仁者にして始めて此行あり
- 容色の美なるのみに非ず
- 權勢財利
- 上にも下にもかゝはりなく
- 之が爲に大道用ひられ行はるゝことあり
- ト筮占候
- 龜の記して
- 貨殖をなす

維我漢繼三五帝末流。接三代統業。周道廢。秦撥去古文。焚滅詩書。

維れ我が漢、五帝の末流を繼ぎ、三代の絶業を接ぐ。周道廢れ、秦、古文を撥去し、詩書を焚滅す。故に明堂石室、金匱玉版、圖籍散亂す。是に於て漢興り、蕭何律令を次いで、韓信軍法を申べ、張蒼章程を爲り、叔孫通禮儀を定む。則ち

故明堂石室。金匱玉版。圖籍散亂。於是漢興。蕭何次律令。韓信申軍法。張蒼爲章程。叔孫通定禮儀。則文學彬彬稍進。詩書往往間出矣。自曹參薦蓋公。言黃老。而賈生龜錯明申商。公孫弘以儒顯。百年之間。天下遺文古事。靡不畢集。太史公。太史公仍父子相續。纂其職。曰。於戲。余維先人嘗掌斯事。顯於唐虞。至于周。復典之。故司馬氏世主天官。至於余乎。欽念哉。欽念哉。

文學彬彬として稍く進み、詩書往往にして間出づ。曹參、蓋公を薦めてより黃老を言ふ。而して賈生、鼂錯は申商を明かにし、公孫弘は儒を以て顯る。百年の間に、天下の遺文古事、畢く太史公に集らざるは靡し。太史公仍りて父子相續ぎて其職を纂ぐ。曰く、於戲余維ふに先人嘗て斯の事を掌りて、唐虞に顯れ、周に至りて復た之を典る。故に司馬氏世々天官を主り、余に至れる乎。欽念ふ哉。欽念ふ哉。

- 伏犠、神農、黃帝、堯、舜
 - 既の字、漢書に従ひて絶と改む
 - はちひ去り
 - 備り整ひて
 - 申
- 不書、商鞅の法を明らかにし

罔羅天下放

天下の放失せる舊聞を罔羅し、王迹の興る所、始を原ね終を察し、盛を見衰を

失舊聞。王迹所興。原始。察終。見盛。觀衰。論考之。行。事。略推三代。錄秦漢。上。記。軒轅。下。至。于。茲。著。十二本紀。既。科。條。之。矣。並。時。異。世。年。差。不。明。作。二十。表。禮。樂。損。益。律。歷。改。易。兵。權。山。川。鬼。神。天。人。之。際。承。敝。通。變。作。二十八。書。二。十。八。宿。環。北。辰。三十。幅。共。一。轂。運。行。無。窮。輔。拂。

觀、之を行事に論考し、略々三代を推し、秦漢を録し、上、軒轅を記し、下、茲に至る、十二本紀を著し、既に之を科條す。時を竝べ世を異にし、年差明かならず。十表を作る。禮樂損益し、律歷改易し、兵權山川鬼神、天人の際、敝を承け變に通ず。八書を作る。二十八宿、北辰を環り、三十幅、一轂を共にし、運行窮り無く、輔拂股肱の臣焉れに配し、忠信道を行ひ、以て主上に奉ず。三十世家を作る。義を扶け儼にして、己をして時を失はしめず、功名を天下に立つ。七十列傳を作る。凡そ百三十篇、五十二萬六千五百字あり。太史公書の序を爲り略々以て遺を拾ひ、藏を補ひ、一家の言を成す。厥れ六經の異傳を協せ、百家の雜語を整齊す。之を名山に藏し、副は京師に在り。後世の聖人君子を俟つ。第七十とす。

- 散逸せる舊聞
- 王者の事迹
- 行事に當て、論じ考へ
- 科分を爲し條理を立つ
- 律書、歷書
- 時弊を承け世變に通じ、斟酌して事物の宜しきに處す
- 北斗星
- 拂は窮と通ず
- 卓越非凡にして
- 六經の缺けたるを補ひ
- 一家一流の書を成す
- 考へ協せて
- 正本
- 副本

股肱之臣配焉。忠信行道。以奉主上。作三十世家。扶義倣儻。不令己失時。立功名於天下。作七十列傳。凡百三十篇。五十二萬六千五百字。爲太史公書序。略以拾遺補蕪。成一言之言。厥協六經異傳。登齊百家雜語。藏之名山。副在京師。俟後世聖人君子。第七十。

太史公曰。余述歷黃帝以來。至太初而訖。百三十篇。

太史公曰く、余、黃帝以來太初に至るまでを述歴して、而して百三十篇に訖る。

● 漢の武帝の年號 ● 段々と述べていく

史記 大尾

昭和二年十二月七日印刷
昭和二年十二月十日發行
漢文叢書 六 (非賣品)

編輯者 塚本哲三
東京府下大久保町西大久保二百三十六番地

發行所 三浦理
東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所 有朋堂印刷所
東京市神田區錦町三丁目九番地

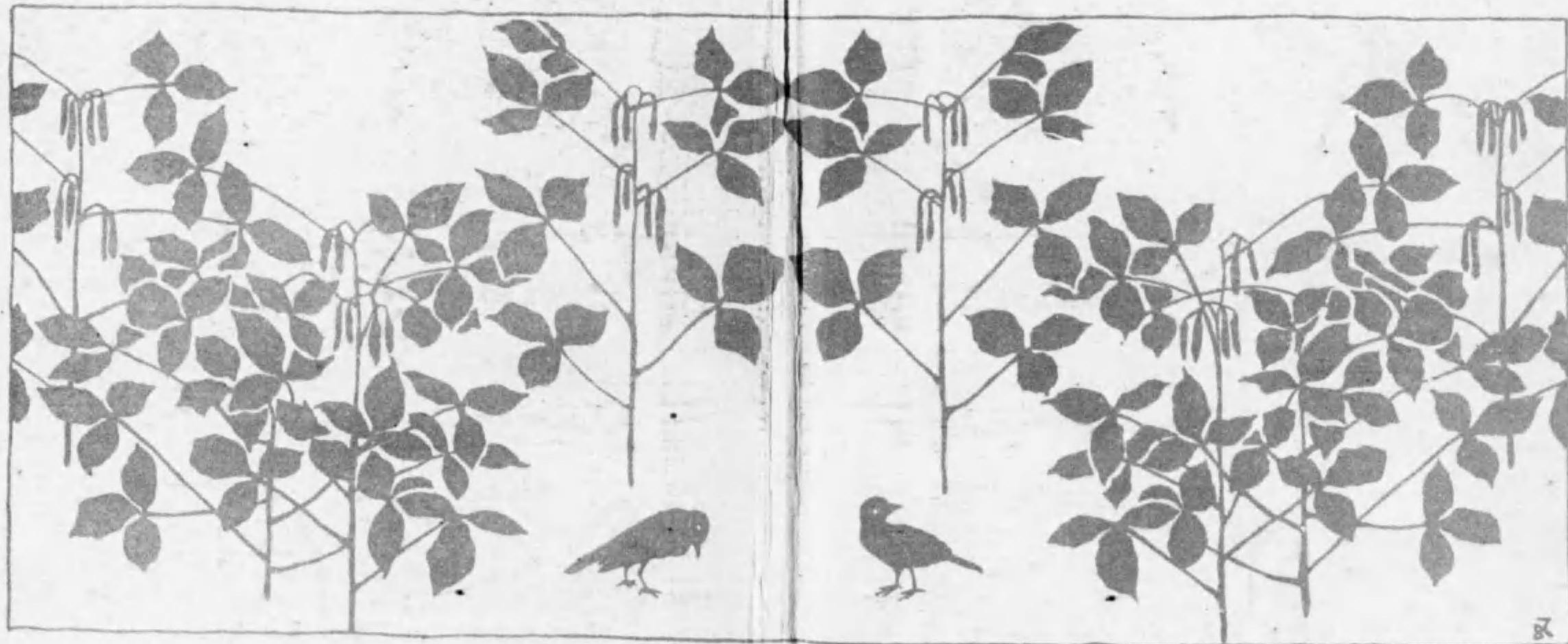
發行所 有朋堂書店
東京市神田區錦町一丁目十九番地

不許複製

(本製山岡)

375

424



87

終